

骨材試験成績一覧表 (様式 31)

用紙A—4

様式 31

骨 材 試 験 成 績 一 覧 表

採取地

印

測定者

細 骨 材					粗 骨 材				
ふるい 目 の 開 き mm	ふるい残留量		累加残留量		ふるい 目 の 開 き mm	ふるい残留量		累加減留量	
	質 量	百分率	質 量	百分率		質 量	百分率	質 量	百分率
	g	%	g	%		kg	%	kg	%
～					～				
～					～				
～					～				
～					～				
～					～				
～					～				
～					～				
合 計					～				
粗粒率					～				
試 験 項 目	単位	細骨材	粗骨材	～					
単位容積質量	kg/m ³			～					
実 績 率	kg/m ³			～					
密 度	g/m ³			以 下					
吸 水 量	%			合 計					
骨 材 の 洗 い	%			粗粒率					
すりへり減量	%								
骨材の安定性	%								
有機不純物	%								
粘 土 塊	%								
軟 かい 石 片	%								
比重1.95以下	%								
塩 化 物 量	%								

累加重百分率 (%)	細 骨 材					粗 骨 材																	
	0.075	0.15	0.3	0.4	0.6	1.2	2.0	2.5	5	10	13	15	20	25	30	40	50	60	80	90	100	150	
0																							
10																							
20																							
30																							
40																							
50																							
60																							
70																							
80																							
90																							
100																							

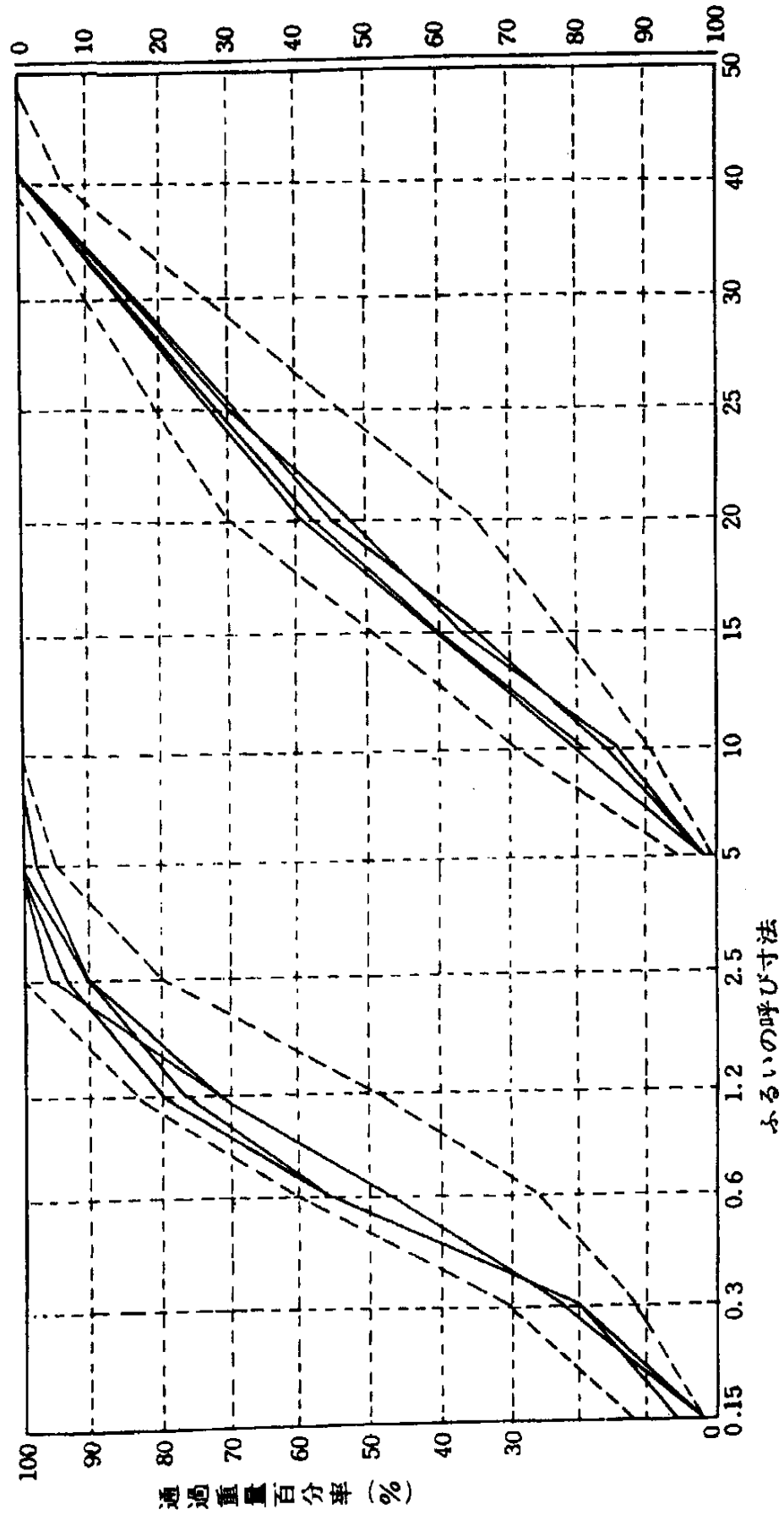
ふるい 目 の 開 き (mm)

記 事

コンクリート骨材ふるい分け試験取りまとめ図(記載例)(様式 32)

様式-32

コンクリート骨材ふるい分け試験取りまとめ図(記載例)



コンクリート品質検査報告書 (様式 33)

用紙A-4

様式 33

コンクリート品質検査報告書

測定者

配合種別

呼び強度

 N/mm^2

※納入生コン工場

構造物	打設位置	供試体		最大荷重 (KN)	圧縮強度 (N/mm^2)			供試体採取 作業所名	試験 年月日	備考
		試験 回数	番号		各個	平均	3回の 平均			
						①				
						②				
						③	①～③ の平均			
						④	②～④ の平均			
						⑤	③～⑤ の平均			
						⑥	④～⑥ の平均			

※試験回数 の圧縮強度試験結果は当作業所での打設のものであることを証明します。

年 月 日

作業所名

責任者

※試験回数 の圧縮強度試験結果は当作業所での打設のものであることを証明します。

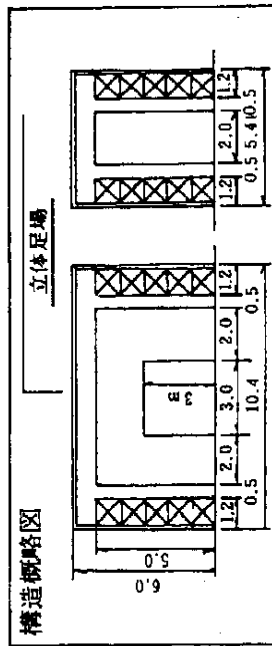
年 月 日

作業所名

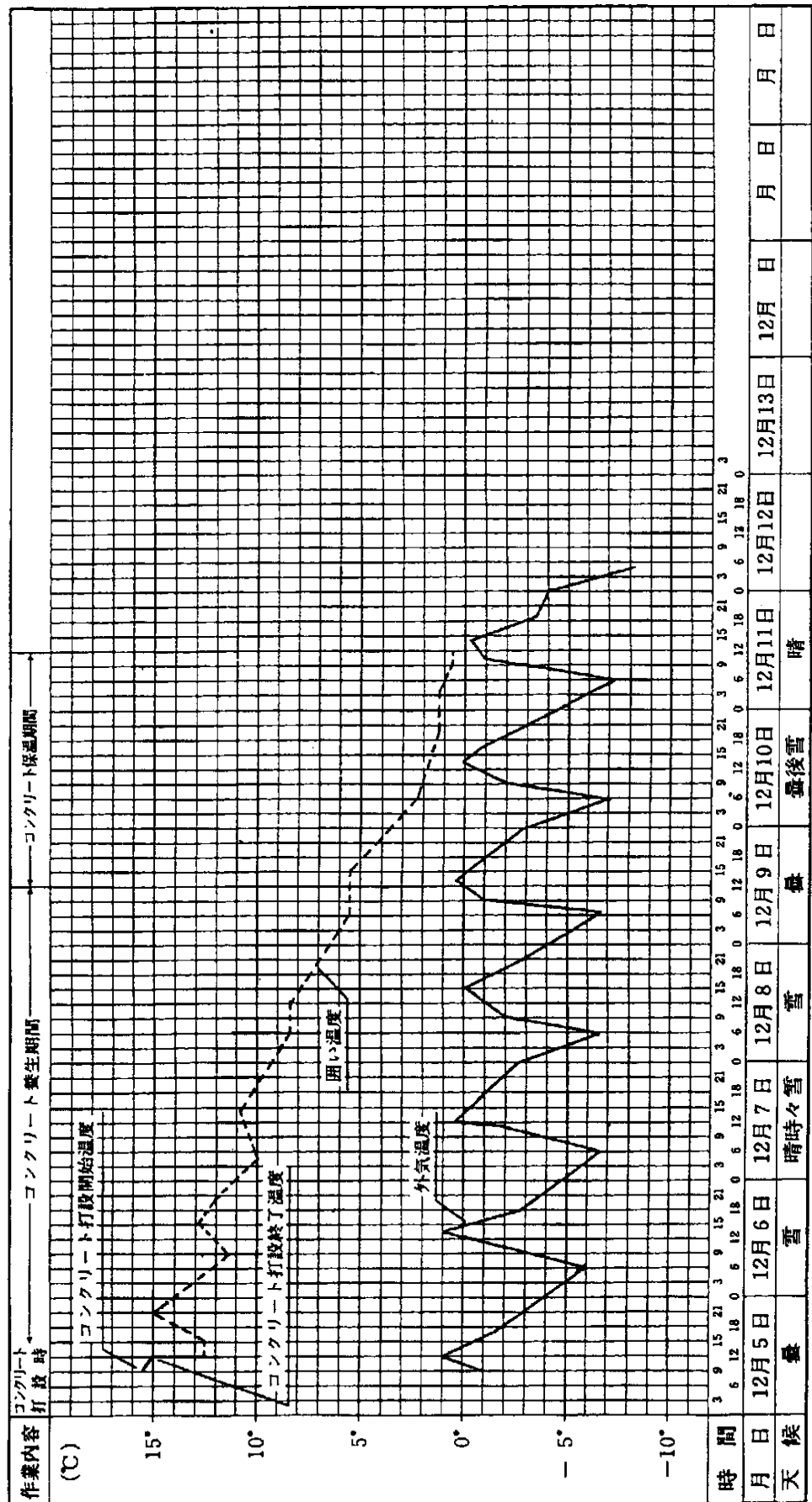
責任者

※ 生コン使用の場合記入する。これに代わる証明書でもよい。

様式(33-1) 寒中コンクリート温度管理記録表(例)



構造物名	配合種別	設計量	打設量
橋脚樞体	RC-1	52.0	52.5
セメントの種類	構造物の露出状態		
普通ポルトランドセメント	普通の露出状態		



レディーミクストコンクリート配合報告書 (様式 34)

レディーミクストコンクリート配合計画書										No. _____		
_____ 殿										_____ 年 _____ 月 _____ 日		
製造会社・工場名 _____										配合計画者名 _____		
工 事 名 称												
所 在 地												
納 入 予 定 時 期												
本 配 合 の 適 用 期 間 ^{a)}												
コンクリートの打込み箇所												
配 合 の 設 計 条 件												
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランブ又はスランブフロー cm		粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号						
指 定 事 項	セメントの種類		呼び方欄に記載			空気量			%			
	骨材の種類		使用材料欄に記載			軽量コンクリートの単位容積質量			kg/m ³			
	粗骨材の最大寸法		呼び方欄に記載			コンクリートの温度			最高最低 °C			
	アルカリシリカ反応抑制対策の方法 ^{b)}					水セメント比の目標値の上限			%			
	骨材のアルカリシリカ反応性による区分		使用材料欄に記載			単位水量の目標値の上限			kg/m ³			
	水の区分		使用材料欄に記載			単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限			kg/m ³			
	混和材料の種類及び使用量		使用材料及び配合表欄に記載			流動化後のスランブ増大量			cm			
	塩化物含有量		kg/m ³ 以下									
	呼び強度を保証する材齢		日									
使 用 材 料 ^{c)}												
セメント		生産者名				密度 g/cm ³				Na ₂ Oeq ^{d)} %		
混和材		製品名		種類		密度 g/cm ³				Na ₂ Oeq ^{e)} %		
骨 材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分 ^{f)}		粒の大きさの範囲 g)	粗粒率又は実績率 h)	密度 g/cm ³		微粒分量の範囲 % i)		
				区 分	試験方法			絶 乾	表 乾			
細 骨 材	①											
	②											
	③											
粗 骨 材	①											
	②											
	③											
混和剤①		製品名			種類			Na ₂ Oeq ^{j)} %				
混和剤②												
細骨材の塩化物量 ^{k)}			%		水の区分 ^{l)}				目標スラッジ固形分率 ^{m)}		%	
配 合 表 ⁿ⁾ kg/m ³												
セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②		
水セメント比		%		水結合材比 ^{o)}		%		細 骨 材 率		%		
備考 骨材の質量配合割合 ^{p)} 、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。												

(様式 34)

レディーミクストコンクリート配合計画書 (続き)

アルカリ総量の計算表 ^{a)}			
アルカリ総量の計算		判定基準	計算及び判定
コンクリート中のセメントに含まれる全アルカリ量(kg/m ³) R_c $R_c = (\text{単位セメント量 kg/m}^3) \times (\text{セメント中の全アルカリ量 Na}_2\text{Oeq: \%}/100)$	① = R_c	—	
コンクリート中の混和材に含まれる全アルカリ量(kg/m ³) R_a $R_a = (\text{単位混和材量 kg/m}^3) \times (\text{混和材中の全アルカリ量: \%}/100)$	② = R_a	—	
コンクリート中の骨材に含まれる全アルカリ量(kg/m ³) R_s $R_s = (\text{単位骨材量 kg/m}^3) \times 0.53 \times (\text{骨材中の NaCl の量: \%}/100)$	③ = R_s	—	
コンクリート中の混和剤に含まれる全アルカリ量(kg/m ³) R_m $R_m = (\text{単位混和剤量 kg/m}^3) \times (\text{混和剤中の全アルカリ量: \%}/100)$	④ = R_m	—	
流動化剤を添加する場合は、コンクリート中の流動化剤に含まれる全アルカリ量(kg/m ³) R_p ^{r)} $R_p = (\text{単位流動化剤量 kg/m}^3) \times (\text{流動化剤中の全アルカリ量: \%}/100)$	⑤ = R_p	—	
コンクリート中のアルカリ総量(kg/m ³) R_t $R_t = ① + ② + ③ + ④ + ⑤$	R_t	3.0kg/m ³ 以下	適・否

用紙の大きさは、日本工業規格A列4番(210×297mm)とする。

注 a) 本配合の適用区間に加え、標準配合、又は修正標準配合の別を記入する。

なお、標準配合とは、レディーミクストコンクリート工場で社内標準の基本にしている配合で、標準状態の運搬時間における標準期の配合として標準化されているものとする。また、修正標準配合とは、出荷時のコンクリート温度が標準配合で想定した温度より大幅に相違する場合、運搬時間が標準状態から大幅に変化する場合、若しくは、骨材の品質が所定の範囲を超えて変動する場合に修正を行ったものとする。

b) JIS A 5308 附属書B 表B.1の記号欄の記載事項を、そのまま記入する。

c) 配合設計に用いた材料について記入する。

d) ポルトランドセメント及び普通エコセメントを使用した場合に記入する。JIS R 5210 の全アルカリの値としては、直近6ヶ月間の試験成績表に示されている、全アルカリの最大値の最も大きい値を記入する。

e) 最新版の混和材試験成績表の値を記入する。

f) アルカリシリカ反応性による区分、及び判定に用いた試験方法を記入する。

g) 細骨材に対しては、砕砂、スラグ骨材、人工軽量骨材、及び再生細骨材Hでは粒の大きさの範囲を記入する。粗骨材に対しては、砕石、スラグ骨材、人工軽量骨材、及び再生粗骨材Hでは粒の大きさの範囲を、砂利では最大寸法を記入する。

h) 細骨材に対しては粗粒率の値を、粗骨材に対しては、実績率又は粗粒率の値を記入する。

i) 砕石及び砕砂を使用する場合に記入する。

j) 最新版の混和剤試験成績表の値を記入する。

k) 最新版の骨材試験成績表の値(NaClとして)を記入する。

l) 回収水のうちスラッジ水を使用する場合は、“回収水(スラッジ水)”と記入する。

m) スラッジ水を使用する場合に記入する。目標スラッジ固形分率とは、3%以下のスラッジ固形分率の限度を保証できるように定めた値である。

n) 人工軽量骨材の場合は、絶対乾燥状態の質量で、その他の骨材の場合は表面乾燥飽水状態の質量で表す。

o) 高炉スラグ微粉末などを結合材として使用した場合にだけ記入する。

p) 全骨材の質量に対する各骨材の計量設定割合をいう。

q) コンクリート中のアルカリ総量を規制する抑制対策の方法を講じる場合にだけ別表に記入する。

r) 購入者から通知を受けたアルカリ量を用いて計算する。

レディーミクストコンクリート納入書 (様式 35)

レディーミクストコンクリート納入書										
殿										No. _____
										年 月 日
製造会社・工場名										
納入場所										
運搬車番号										
納入時刻					発		時 分			
					着		時 分			
納入容積					m ³		累 計		m ³	
呼 び 方	コンクリートの種類による記号		呼 び 強 度		スランプ又はスランプフロー cm		粗 骨 材 の 最 大 寸 法 mm		セメントの種類による記号	
配 合 表 a) kg/m ³										
セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
水セメント比		%	水結合材比 b)		%	細骨材率		%	スラッジ固形分率	
備考 配合の種類: ☐ 標準配合 ☐ 修正標準配合 ☐ 計量読取記録から算出した単位量 ☐ 計量印字記録から算出した単位量 ☐ 計量印字記録から自動算出した単位量										
荷受職員認印						出荷係認印				

注記 用紙の大きさは、日本工業規格A列5番(148mm×210mm)又はB列5番(182mm×257mm)とするのが望ましい。

注 a) 標準配合、修正標準配合、計量読取記録から算出した単位量、計量印字記録から算出した単位量、若しくは計量印字記録から自動算出した単位量のいずれかを記載する。また、備考欄の配合種別については、該当する項目にマークを付す。

b) 高炉スラグ微粉末などを結合材として使用した場合にだけ記入する。

コンクリート強度試験表
(シュミットテストハンマーによる)

		監督員

測定者

No.	名 称	反 撓 度																				20 回 の 計	平均値	換算強度 kg/cm ²
		1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回	8 回	9 回	10 回	11 回	12 回	13 回	14 回	15 回	16 回	17 回	18 回	19 回	20 回			

消除

注入モルタルプレパクトコンクリート管理試験日報 (様式 38)

様式-38 注入モルタル プレパクトコンクリート															管理試験日報									
供試体採取年月日		年 月 日		天 候		気 温		最高 最低		℃		請 負 者		測 定 者										
モルタル 示方配合	水(ℓ)	セメント(kg)	フライアッシュ(kg)	砂(m ³)	減水剤(kg)	アルミニウム粉末(w)	水セメント比(%)	水給合材比(%)	摘 要															
モルタル 現場配合	水(ℓ)	セメント(kg)	フライアッシュ(kg)	砂(m ³)	減水剤(kg)	アルミニウム粉末(w)	水セメント比(%)	水給合材比(%)	摘 要															
構造物	打 設 位 置	設計 プレパクト コンクリート 量(量)	モルタル打設量		モルタル 温 度 (℃)	フロー値 (秒)	ブリージ ング 率 (%)	膨張率 (%)	供試体採取日															
			バッチ 数	m ³					7 日	28 日	91 日													
供試体 記 番	配 合 種 別	養 生 方 法	試 験 材 令 (日)	供試体 質 量 (kg)	最 大 荷 重 (t)	圧縮強度(N/mm ²)																		
						各 個	平 均																	
モ ル タ ル																								
コ ン ク リ ー ト																								
記 事																								

注入コンクリート報告書 (様式 39)

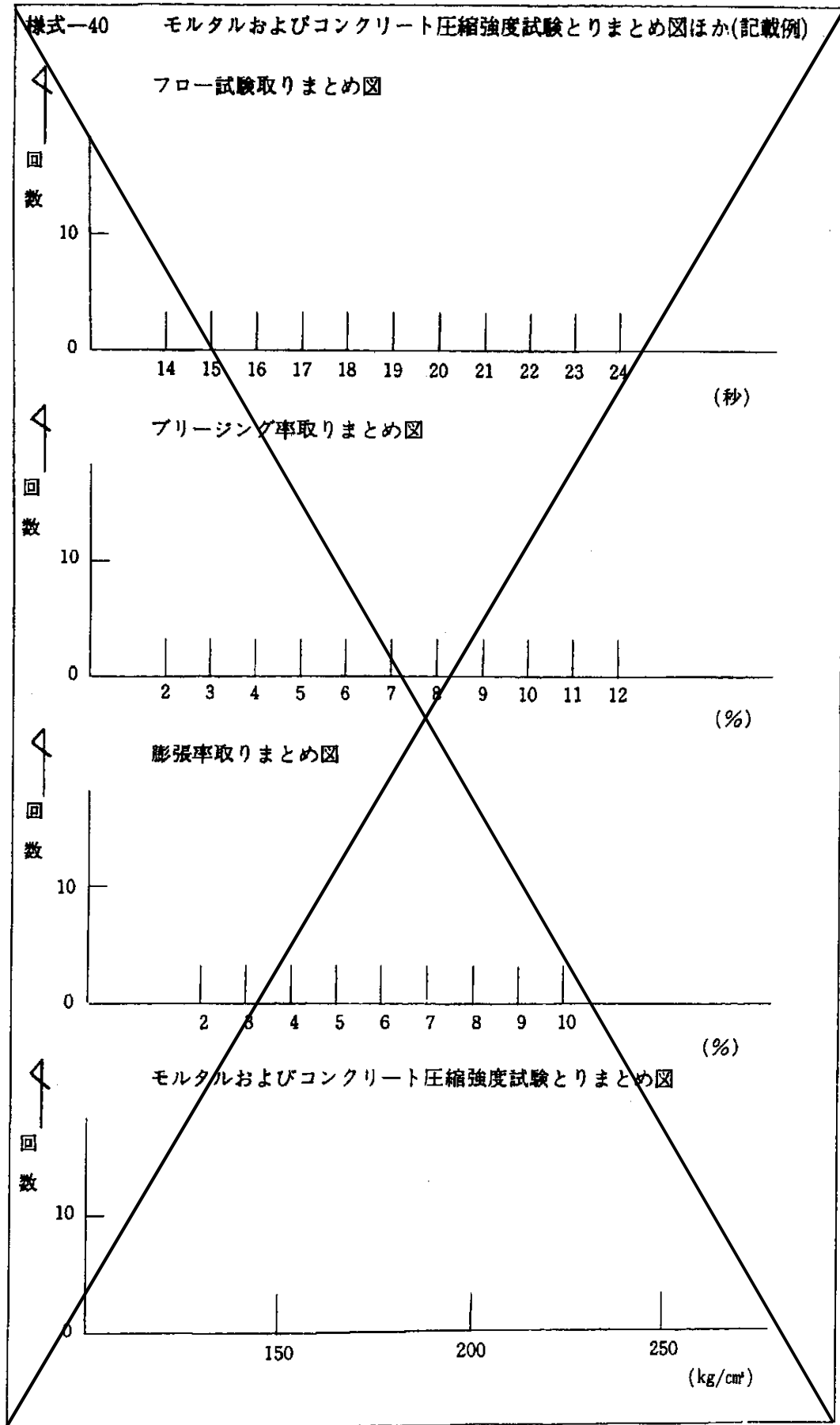
様式—39 注入コンクリート報告書 年 月 日 様 工事名											
注 入 個 所				粗 骨 材 填 充 月 日				填 充 量			
注 入 時 刻		開 始	前 後 時 分				所 要 時 間	時間			
		終 了	前 後 時 分								
注 入 量		バッチ 数			総量		セメント 使 用 量				
フ ロー 値		1 回		2 回		3 回		4 回		5 回	
注入状況その他 (パイプ配置略図等)											
監督員認印						報告者認印					

注入コンクリート配合報告書 (様式 39-1)

用紙A-4

様式39-1 注 入 コ ン ク リ ー ト 配 合 報 告 書 様 施 行 者									
整 理 番 号				報 告 日			配 合 計 画 者 名		
工 事 名									
所 在 地									
注 入 コ ン ク リ ー ト 施 工 カ 所					所 要 フ ロ ー 値				
セ メ ン ト 種 別				製 造 会 社 名			単 位 セ メ ン ト 量	kg / m ³	
フ ラ イ ア ツ シ ュ 種 別 (会 社 別)				分 散 剤	ポ ソ リ ス No 8	濃 度			
細 骨 材				最 大 寸 法	■ 粗 粒 率	%	比 重		
砂 利、砕 石				同 上	■ 空 隙 率	%	同 上		
最 大 水 セ メ ン ト 比	% 4 週 圧 縮 強 度								kg / m ³
標 準 配 合 表									
	セ メ ン ト	フ ラ イ ア ツ シ ュ	細 骨 材	ポ ソ リ ス No 8	ア ル ミ 粉 末	水	フ ロ ー 値		
	kg / m ³	kg / m ³	kg / m ³	kg / m ³	kg / m ³	ℓ / m ³	sec		
材 料 所 要 量									
一 パ ッ チ 材 料 所 要 量									
重 量 配 合 比					水、セメント比		%		
配合設計の方法その他									

モルタル及びコンクリート圧縮強度試験取りまとめ図ほか (記載例) (様式 40)



P C グラウト工試験 (様式 41)

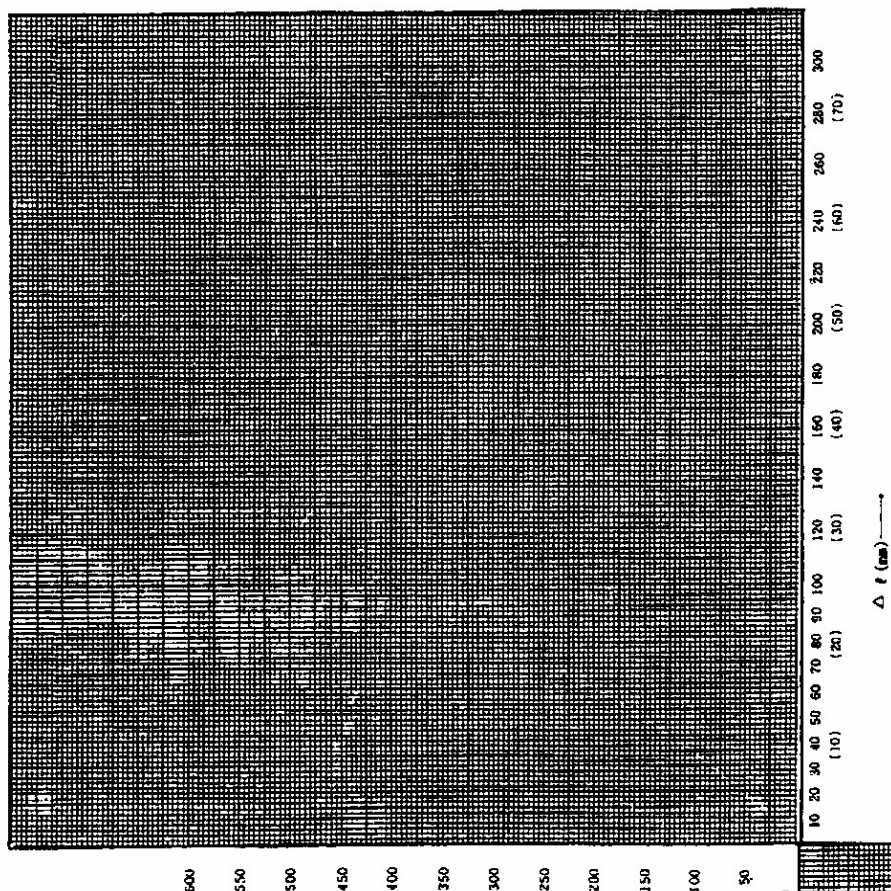
用紙A-4

様式 41 P C グラウト工試験																																																																																																									
年 月 日			測定者																																																																																																						
天候																																																																																																									
試験番号			気温																																																																																																						
試験場所			セメント温度																																																																																																						
測定開始時刻			使用水温																																																																																																						
測定終了時刻			グラウト温度																																																																																																						
1. 材料			2. 練り混ぜ																																																																																																						
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 30%;">材料</th> <th style="width: 20%;">種類</th> <th style="width: 50%;">製造業者</th> </tr> <tr> <td>セメント</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>フライアッシュ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>セメント分散剤</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>A. L. 粉末</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			材料	種類	製造業者	セメント			フライアッシュ			セメント分散剤			A. L. 粉末			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">ミキサ</td> <td style="width: 30%;"></td> </tr> <tr> <td>ミキサの回転数</td> <td>回/分</td> </tr> <tr> <td>練り混ぜ時間</td> <td>分</td> </tr> <tr> <td>材料投入時間</td> <td>分 秒</td> </tr> </table>			ミキサ		ミキサの回転数	回/分	練り混ぜ時間	分	材料投入時間	分 秒																																																																													
材料	種類	製造業者																																																																																																							
セメント																																																																																																									
フライアッシュ																																																																																																									
セメント分散剤																																																																																																									
A. L. 粉末																																																																																																									
ミキサ																																																																																																									
ミキサの回転数	回/分																																																																																																								
練り混ぜ時間	分																																																																																																								
材料投入時間	分 秒																																																																																																								
3. バッチ配合			4. 試験																																																																																																						
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 10%;">W/C</th> <th style="width: 10%;">C</th> <th style="width: 10%;">W</th> <th style="width: 10%;">Pozz</th> <th style="width: 10%;">AL</th> <th style="width: 10%;">AL/C</th> </tr> <tr> <td>(%)</td> <td>(kg)</td> <td>(kg)</td> <td>(g)</td> <td>(g)</td> <td>(%)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			W/C	C	W	Pozz	AL	AL/C	(%)	(kg)	(kg)	(g)	(g)	(%)							<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">練り混ぜ後放置時間</td> <td style="width: 30%;">分</td> </tr> <tr> <td></td> <td>秒</td> </tr> <tr> <td>流下時間</td> <td>秒</td> </tr> <tr> <td></td> <td>秒</td> </tr> </table>			練り混ぜ後放置時間	分		秒	流下時間	秒		秒																																																																										
W/C	C	W	Pozz	AL	AL/C																																																																																																				
(%)	(kg)	(kg)	(g)	(g)	(%)																																																																																																				
練り混ぜ後放置時間	分																																																																																																								
	秒																																																																																																								
流下時間	秒																																																																																																								
	秒																																																																																																								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2" style="width: 5%;">番号</th> <th rowspan="2" style="width: 10%;">直後の読み (cc)</th> <th colspan="2" style="width: 20%;">3時間経過後の読み</th> <th colspan="2" style="width: 20%;">20時間以上経過後の読み</th> <th colspan="2" style="width: 15%;">フリージング率</th> <th colspan="2" style="width: 20%;">膨張率(%)</th> </tr> <tr> <th style="width: 10%;">水 (cc)</th> <th style="width: 10%;">グラウト (cc)</th> <th style="width: 10%;">水 (cc)</th> <th style="width: 10%;">グラウト (cc)</th> <th style="width: 10%;">3時間後 (%)</th> <th style="width: 10%;">20時間後 (%)</th> <th style="width: 10%;">3時間後</th> <th style="width: 10%;">20時間以上</th> </tr> <tr><td> </td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td> </td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td> </td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>						番号	直後の読み (cc)	3時間経過後の読み		20時間以上経過後の読み		フリージング率		膨張率(%)		水 (cc)	グラウト (cc)	水 (cc)	グラウト (cc)	3時間後 (%)	20時間後 (%)	3時間後	20時間以上																																																																																		
番号	直後の読み (cc)	3時間経過後の読み		20時間以上経過後の読み				フリージング率		膨張率(%)																																																																																															
		水 (cc)	グラウト (cc)	水 (cc)	グラウト (cc)	3時間後 (%)	20時間後 (%)	3時間後	20時間以上																																																																																																
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="5" style="width: 50%;">圧縮強度試験</th> <th colspan="5" style="width: 50%;">圧縮強度試験</th> </tr> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 10%;">材令</th> <th style="width: 10%;">荷重 (KN)</th> <th style="width: 10%;">圧縮強度 (N/mm²)</th> <th style="width: 10%;">備考</th> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 10%;">材令</th> <th style="width: 10%;">荷重 (KN)</th> <th style="width: 10%;">圧縮強度 (N/mm²)</th> <th style="width: 10%;">備考</th> </tr> <tr><td> </td><td></td><td></td><td></td><td></td><td> </td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td> </td><td></td><td></td><td></td><td></td><td> </td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td> </td><td></td><td></td><td></td><td></td><td> </td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td> </td><td></td><td></td><td></td><td></td><td> </td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td> </td><td></td><td></td><td></td><td></td><td> </td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td> </td><td></td><td></td><td></td><td></td><td> </td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td> </td><td></td><td></td><td></td><td></td><td> </td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>平均</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>平均</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>						圧縮強度試験					圧縮強度試験					番号	材令	荷重 (KN)	圧縮強度 (N/mm ²)	備考	番号	材令	荷重 (KN)	圧縮強度 (N/mm ²)	備考																																																																							平均					平均				
圧縮強度試験					圧縮強度試験																																																																																																				
番号	材令	荷重 (KN)	圧縮強度 (N/mm ²)	備考	番号	材令	荷重 (KN)	圧縮強度 (N/mm ²)	備考																																																																																																
平均					平均																																																																																																				

プレストレスिंग管理表(1)

者定測

緊張年	日	年	月	日
けた番	号	No		
ケーブ	ル	No		
緊張順	序	C		

[illegible]

コンクリート打設	年	月	日
コンクリートの圧縮度			
Q=	N/mm ² (自然養生)		
Q=	N/mm ² (自然養生)		
支間中央最終送り量		mm	
短 縮 量		mm	

晴・曇・雨	気温・湿度
緊要上の特記事項	

プレストレッシング管理表 (2) (様式 43)

様式-43

プレストレッシング管理表(2)

(PCケーブルの組による管理)

けた番号	1						2						3						4					
ケーブル番号	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥
摩擦係数の値(μ)	0.37 0.27 0.36 0.34 0.40 0.40						0.18 0.30 0.20 0.10 0.40 0.45																	
μ の平均値($\bar{\mu}$)	0.375						0.272																	
μ の範囲(R)	0.13						0.35																	

けた番号	8						9						10						11					
ケーブル番号	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥
摩擦係数の値(μ)	0.28 0.63 0.38 0.34 0.35 0.29																							
μ の平均値($\bar{\mu}$)	0.378																							
μ の範囲(R)	0.35																							

0.4

$\bar{\mu} = \frac{1}{n} \cdot \sum_{i=1}^n \mu_i$

0.2

0

けた No.	1	2	3	4	5	6	7	8
R	0.4	0.2	0					

高力ボルト締付け検査記録票 (様式 44)

用紙A-4

高力ボルト締付け検査記録票														
検査年月日			年 月 日		測 定 者		N・m							
高力ボルトの種類			締付けボルト軸力											
インバクトレンチ ボルト軸力計 トルクレンチ 柄のタワミによる型 ダイヤル目盛型			社製 社製 社製 社製		インバクトレンチの検定					算出トルク数 所要軸力になるための トルク量				
					ボルト									
					測定トルク量									
					測定軸力									
					測定トルク数									
			No 1											
			No 2											
			No 3											
			No 4											
			No 5											
測定軸力			作業完了											
セットした軸力														
箇所	検査本数	所用トルク (T)	測定トルク量(N・m)		合計	平均	誤差	許容トルク量		略図式及び名称				

キャンバー測定記録表 (様式 45)

用紙A-4

様式 45

キャンバー測定記録表

工程		測定箇所	測 定 者			
			架 設 後	測	定	者
鋼 げ た 架 設 完 了 時	計画高 (製作時)				地 覆・高 欄	—
	計画 高				舗 装 後	
	施工 高					
	差					
床 板 打 設 完 了 時	計画 高					
	施工 高					
	差					
	高 欄 地 覆 完 了 時	計画 高				
施工 高						
差						
舗 装 完 了 時		測 標 高				
	計画 高					
	施工 高					
	差					

注) 地覆施工時地覆部に格点数の1/2程度の数の測標を設置するものとする。

測標はさびにくい材料によるものとし、舗装完了時の測標高を記録するものとする。

膜厚測定記録 (様式 46)

用紙A-4

様式 46

膜 厚 測 定 記 録

塗 装 系		系					測 定 月 日		年 月 日	
測 定 時 期		工場 下塗前	工場後	現場前	現場後	測 定 者				
構 造 名										
測定位置	測定値	1	2	3	4	5	平均 X i	平 方 根		備 考
								$\bar{X}-X_i$	$(\bar{X}-X_i)^2$	
G ₁ -1	A									
	B									
	C									
	D									
	E									
	F									
	G									
	H									
	I									
	J									
	K									
	L									
	M									
	N									
合 計							合 計			
平 均 値 $\bar{X} =$										

平 均 値	$\bar{X} = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^n X_i$	
標 準 偏 差	$S = \sqrt{\frac{1}{N-1} \sum_{i=1}^n (\bar{X} - X_i)^2}$	

塗膜厚の度数分布表（様式 47）

用紙A-4

様式 47

塗膜厚の度数分布表

記録者 _____

膜 厚 (μ) X_i	測定点個数 f_i	膜 厚 (μ) X_i	測定点個数 f_i
20～ 29		110～119	
80～ 89		120～129	
90～ 99		130～139	
100～ 109		140～149	
		合計	

個

測定点個数 f_i

膜厚 X_i	測定点個数 f_i
20～29	1
80～89	2
90～99	3
100～109	5
110～119	7
120～129	5
130～139	2
140～149	1

膜 厚 X_i

くい打込み記録表 (記載例) (様式 48)

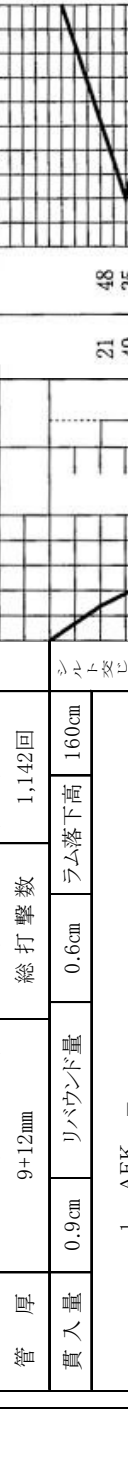
様式 48

用紙 A-4

くい打込み記録表 (記載例)

記録者

くい番号	No.	年	月	日	天候	気温	℃
くい打機諸元		ディーゼルバールハンマー D-1222					
くい寸法	長さ	15.0m	貫入深さ	※17.0m	径	600mm	
管厚	9+12mm	総打撃数		1,142回			
貫入量	0.9cm	リバウンド量	0.6cm	ラム落下高	160cm		
支持力 $Ra = \frac{1}{3} \left(\frac{AEK}{eo \cdot l} + \frac{\Delta L \cdot m}{ef} \right) \dots\dots$ 道示内の式 $\frac{AE}{l} = \frac{221.7 \times 10^{-4} \times 2.1 \times 10^7}{8.0} \times \frac{1}{\left(1 + \frac{7.0}{167.1} - \frac{8.0}{221.7} + \frac{4.0}{221.7} \right)}$ $\frac{1}{221.7} = 2.19 \times 10^{-4}$ $Ra = \frac{1}{3} \left(\frac{2.19 \times 10^4 \times 0.6 \times 10^2}{1.5 \times \frac{2.2}{2.1+0.9}} + \frac{17 \times 1.884 \times 15.0}{2.5} \right) = 104t$ ただし、$K=0.6 \times 10^5$ m、$eo= \frac{1.5WH}{Wp}$、$WH=2.2t$ $Wp=2.1t+0.9t$、$N=17$、$ef=2.5$ $U=0.6 \times 3.14=1.884m$							
くい位置のずれ		X-X	mm	Y-Y	mm	くい角度のずれ	1/100
記 事 ※ヤットコφ600mm L=4.00m、t=12を使用 > <は継手位置							

土質	N値	標高 (m)	貫入深さ (m)	一貫打 入当り 量り (m)	100cmごとの 1打撃当り貫入量 (mm)	落下 下ム 高の (cm)	リバ ド量 ウ (mm)
シルト交じり砂質土	10203040	95	21 49 133 162 199 251 318 396 460 524 600 668 746 829 924 1032 1142	48 35 11 34 27 19 15 13 16 16 13 15 13 12 10 9 9		160 160 160	8 7 3回の 平均 6

参 考

杭の打止め管理

杭の打止め管理は杭の根入れ長さ、リバウンド量（動的支持力）、貫入量、支持層の状態などより総合的に判断しなければならない。動的支持力の算定式については「杭基礎施工便覧」（日本道路協会H4.10）などによる。

くい貫入量測定記録図 (様式 49)

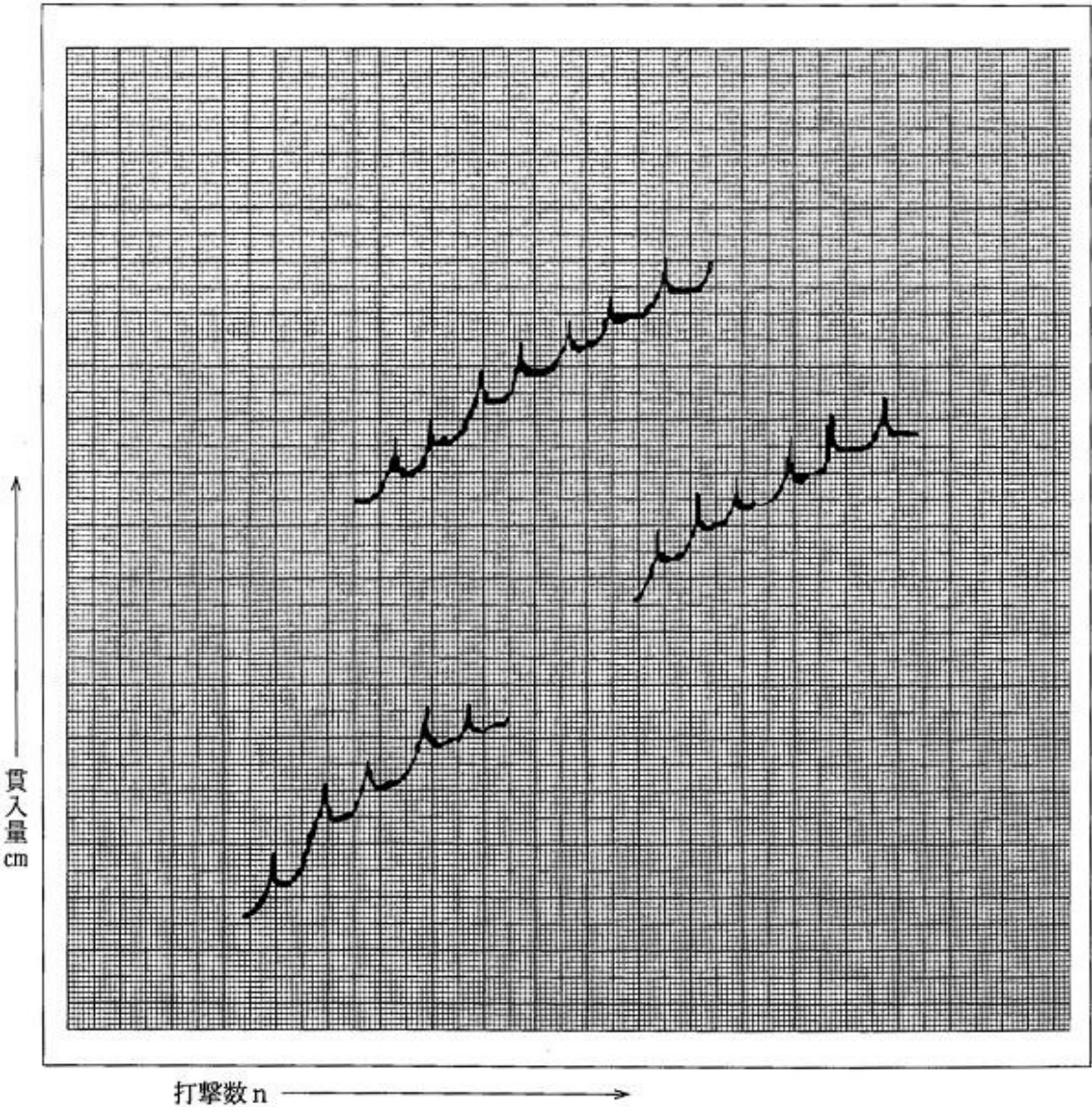
用紙A—4

様式 49

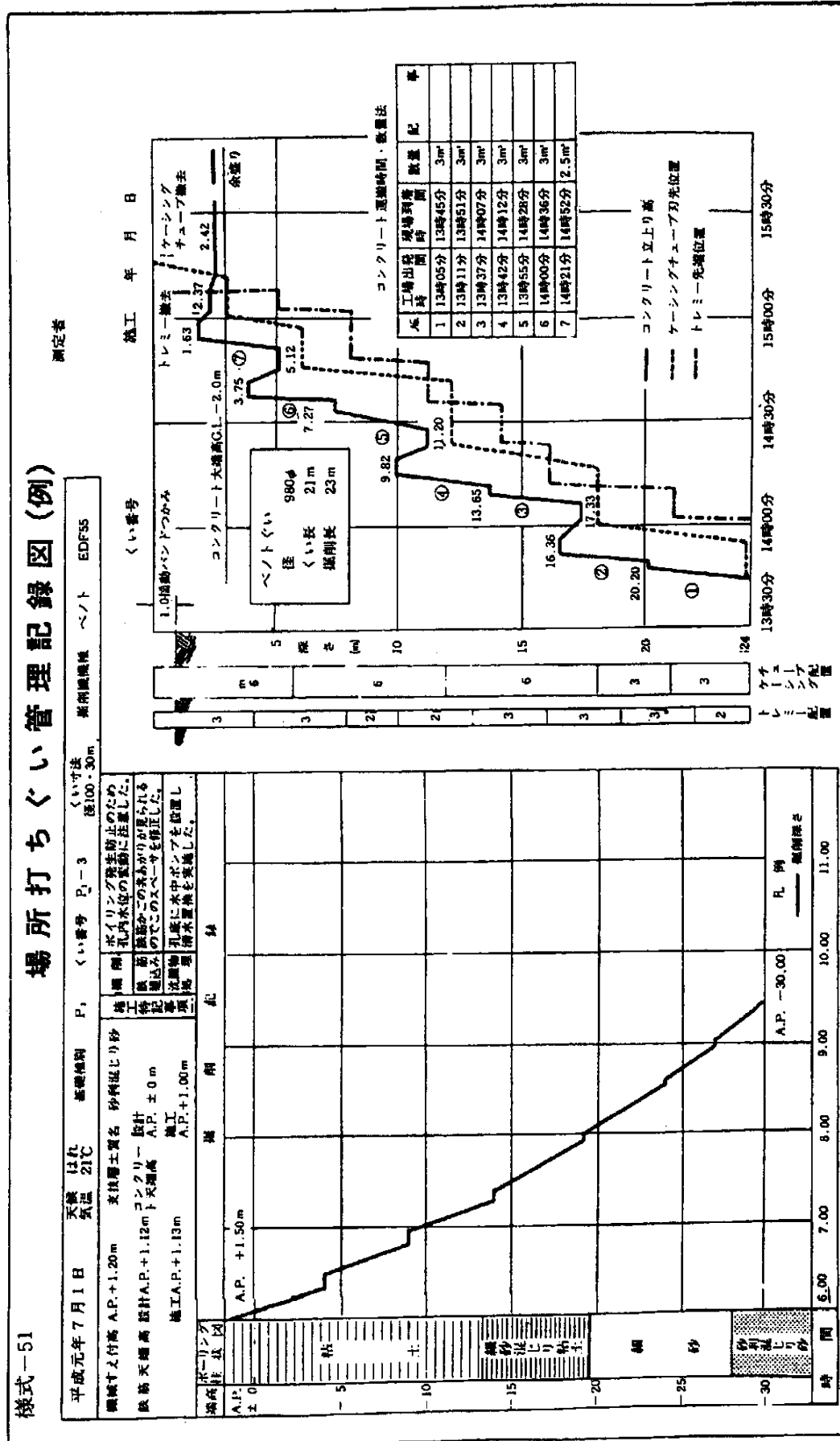
くい貫入量測定記録図

く い 番 号	No.	
貫 入 深 度	G. L—00	mm
ハンマ重量	W 1.25	ton
ハンマ落下高さ	H 110	cm
貫 入 量	S 0.4	cm
リバウンド	K 0.6	cm
長期許容支持力	Ra	ton

年月日 年 月 日
測定者



場所打ちぐい管理記録図 (例) (様式 51)



井筒施工記録表（様式 52）

深礎施工記録表（様式 52）

用紙 A-4

[illegible]

井筒施工管理図 (様式 53)

深礎施工管理図 (様式 53)

様式—53

井筒
深礎

施工管理図(例)

基礎番号	第○号橋脚	形式形状	円	形状寸法	φ8.00 20.0m	測定者	特記事項	
施工値	橋軸	天端H 100,000			位置のずれ X-X +10 Y-Y -5 X-X -10 Y-Y +5	中埋材 切込砂利 (無規格)	1. 5.0~7.0mでポンプ(φ160)3台使用(80m ² /H) 2. 18.5mで沈下止まったので100t載荷する。	
		すえ付地盤高H=100.00	σ=+10	100.025				σ+25
		100.000	σ=±0	99.985				σ-15
		100.005	σ=+5	100.010				σ+10
直	角	100.005	σ=+5	100.000	σ±0	天端		
		実測柱状図			沈設記録	月日 日数	中埋記録	月日 日数
深度	橋高	ボーリング柱状図	実測柱状図	コンクリート打設ロット割り及び高さ				
±0	1000.000	河川河床砂シ文質ルトリ	河川河床砂シ文質ルトリ					
5	95.000	河川河床砂シ文質ルトリ	河川河床砂シ文質ルトリ					
10	90.000	河川河床砂シ文質ルトリ	河川河床砂シ文質ルトリ					
15	85.000	河川河床砂シ文質ルトリ	河川河床砂シ文質ルトリ					
20	80.000	河川河床砂シ文質ルトリ	河川河床砂シ文質ルトリ					
25		河川河床砂シ文質ルトリ	河川河床砂シ文質ルトリ					
30		河川河床砂シ文質ルトリ	河川河床砂シ文質ルトリ					

地点標設置成果表 (様式 54)

様式-54

地点標設置成果表

地点標設置成果表

路 線 名		備 考						
地 点 標	距 離	型 式	道路中 心より の距離	地点標所在地	主 要 地 点			測 点
					測 点	地 称	測 点	
		</						

區面線出來形測定結果表(1)

[illegible]

路面標示出來形測定結果表(3)

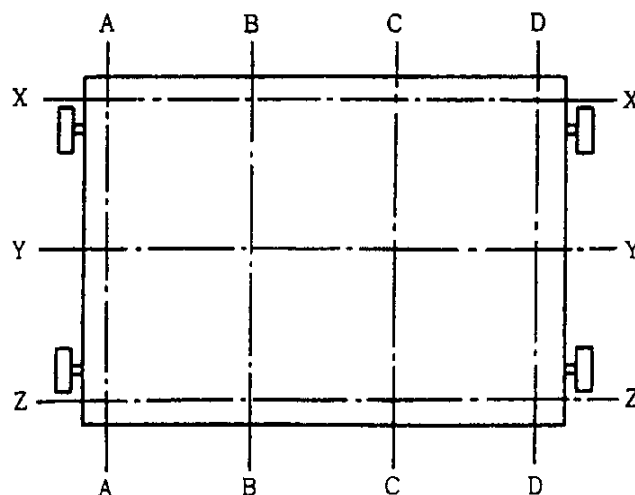
付 表 107

水門出来形記録表 (様式 57)

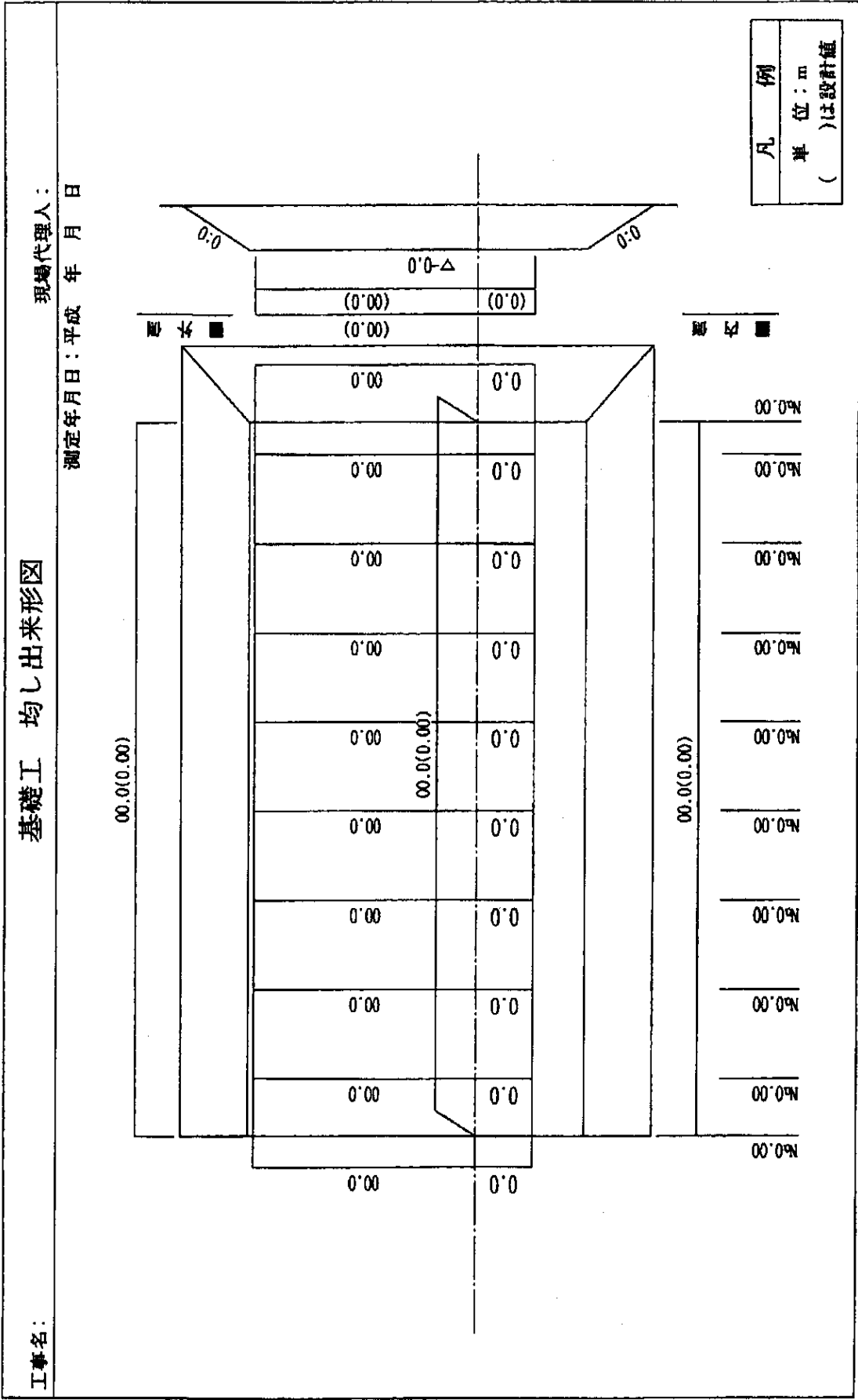
様式-57 水門出来形記録表

工 事 名		((例) ○ ○ 水 門 新設第○期工事						
測 定 時 期		(例) 現 場 塗 装 完 了 後 日						
測 定 箇 所		(例) ○ ○ ゲート 扉 体 前 面						
測 定 結 果		(標準膜厚) ○ ○ (最低膜厚) ○ ○						
測定年月日					測 定 者			
測 定 値								
測 定 位 置		1 (上)	2 (下)	3 (左)	4 (右)		平 均	最低値
(例) 1	A-X							
2	A-Y							
3	A-Z							
4	B-X							
5	B-Y							
6	B-Z							
7	C-X							
8	C-Y							
9	C-Z							
10	D-X							
11	D-Y							
12	D-Z							
13								
14								
15								
16								
17								
18								
19								
20								
標準膜厚		—	—	—	—	—	(平均)	—

(例)



基礎工 均し出来形図 (様式 58)



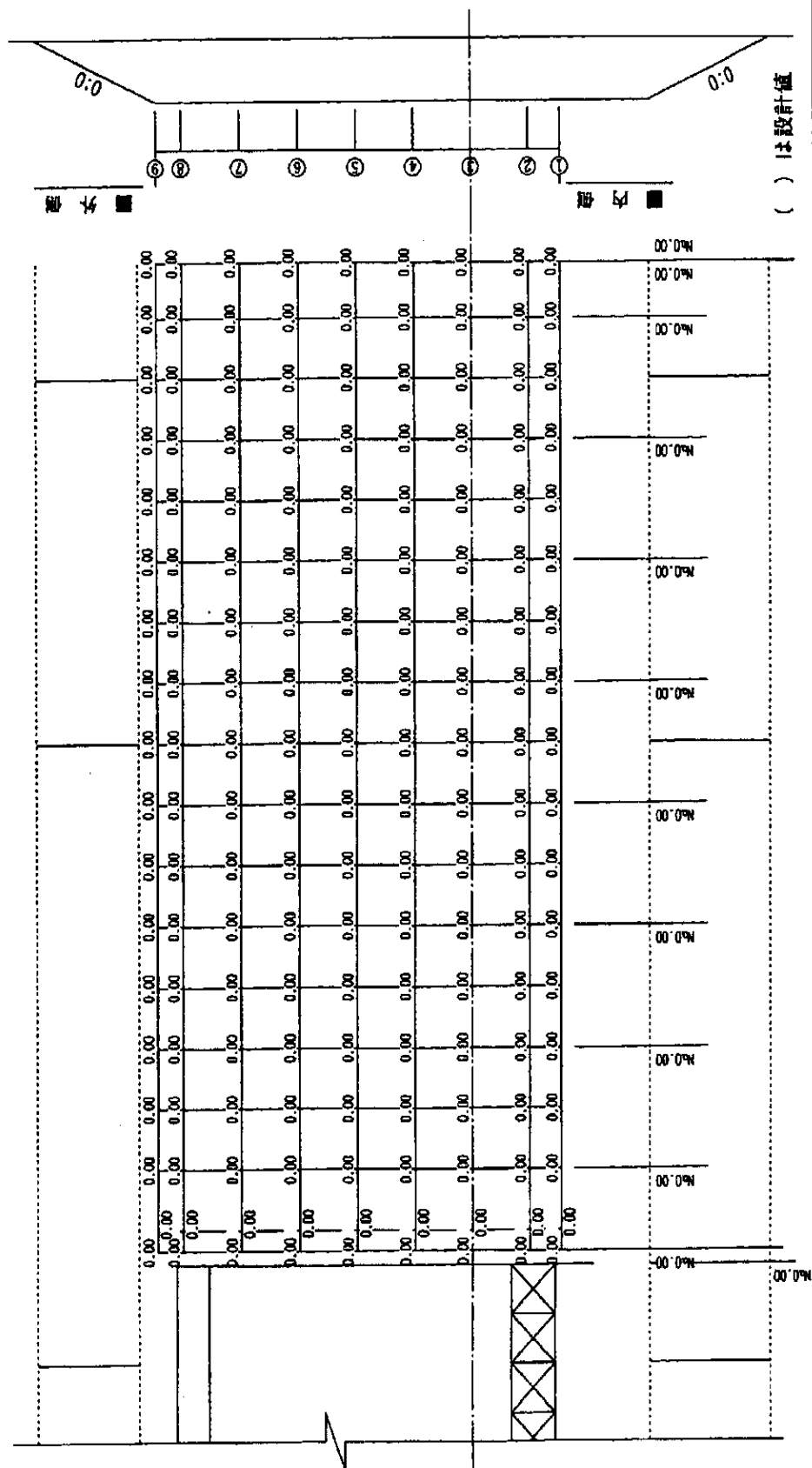
基礎工 均し出来形平面図 (様式 59)

樣式-59

基礎工 均し出来形平面図

現場代理人： 年 月 日
測定年月日：平成

工 事 名



杭出来形管理表 (様式 60)

[illegible]

樣式-61

杭打迟記錄

杭番号	No.		杭打機	称式		ラム落下高	m
外径又は高さ・幅長		cm	名	型全重		打撃エネルギ―	t・m
年月日	年 月 日	m	型全重			打撃回数(毎分)	回/分
氏名			ラム重量			爆発による押圧力	
記録者						クワシヨン材	

[illegible]

注1} 貫入深地盤
2} 現地鑿金
3} 高及下量
4} バウメント
5} リンパ式機
6} 振動式枕杭

は、工事用基準面から深さの異なる層に打設するときは、その時の土質状況、油圧、自重平均値及び傾斜、土質の不均等性、および基礎の高さを考慮し、必要に応じて打設方法を調整することとする。

また打止まり付近は10cmごとに記録する。更に記録する場合の格式は、監督員の承認を得るものとする。

矢板出来形管理表 (様式 62)

[illegible]

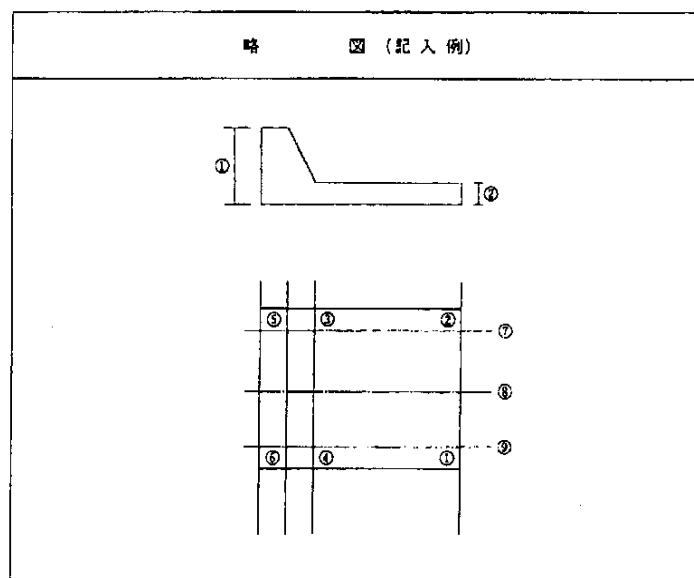
上部コンクリート出来形測定表（様式 66）

様式-66

上部コンクリート出来形測定表

工事名

年 月 日

[illegible]

洗掘防止マット出来形測定表（様式 67）

様式-67

洗掘防止マット出来形測定表

名 事 工

日
月
年

現場代理人

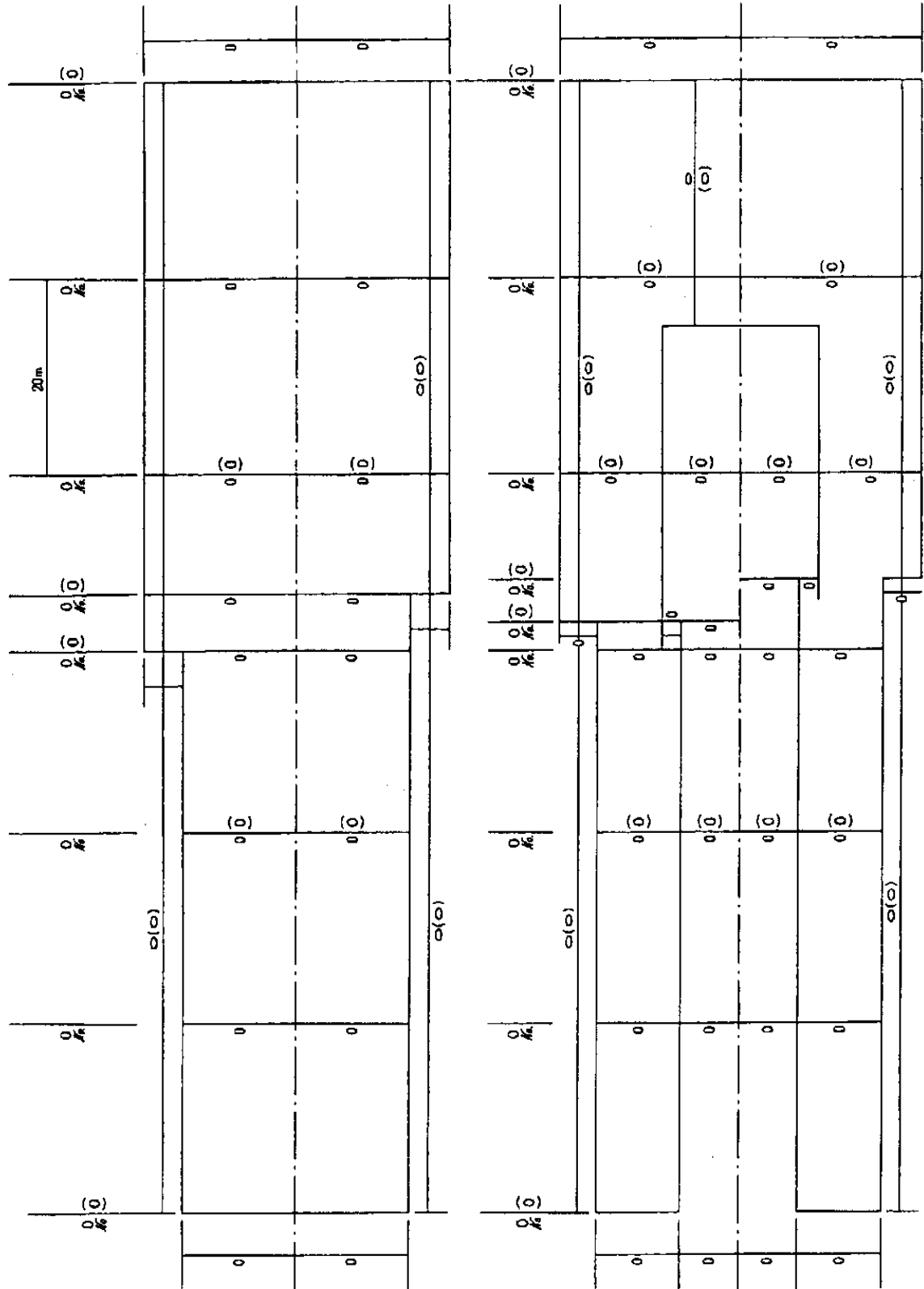
[illegible]

(注) 敷設位置マツトNo設計測線と関連づけて記入、重ね幅の記入は監督員の指示による。
延長は、測定区間、全長を関連づけて記入。

出来形平面図 (様式 68)

様式-68

出来形平面図



トンネル内空断面出来形測定結果表（様式 72）

[illegible]

二次覆工打設前巻立空間測定結果表 (様式 73)

様式-73

二次覆工打設前巻立空間測定結果表

巻立空間

測定者 _____

測定区間		SP= _____ ~SP= _____											
地山分類		設計覆工厚A				アーチ: _____ cm		インバート: _____ cm		規定値範囲		設計覆工厚以上	
中 測 間	点	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	インバート				
									(8)	(9)	(10)	平均値	
	測定厚B (cm)												
	設計厚との差 B-A (cm)												
終 測 点	点	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	インバート				
									(8)	(9)	(10)	平均値	
	測定厚B (cm)												
	設計厚との差 B-A (cm)												

記 事:

※ 1 打設長の間と終点を図に示す各点で測定。

※ 以下の場合には設計厚適用外とする。

- 1) 良好な地山における岩または吹付コンクリートの部分的な突出で設計覆工厚の1/3以下のもの。
ただし、変形が収束しているものに限る。
- 2) 異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付時には安定が確認され、かつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。
- 3) 鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。

二次覆工出来形測定結果表 (様式 74)

様式-74

二次覆工出来形測定結果表

二次覆工端部

測定者 _____

測定区間		SP= _____ ~SP= _____												
地山分類		設計覆工厚A				アーチ: _____ cm		インバート: _____ cm		規定値範囲		設計覆工厚以上		
覆 工 端 部	測 点	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	平均値	イ ン バ ー ト				
										(8)	(9)	(10)	平均値	
	測定厚B(cm)													
	設計厚との差 B-A(cm)													

記 事: ※ 1 打設長の端面において図に示す測点。
 ※ 以下の場合には設計厚適用除外とする。
 1) 良好な地山における岩または吹付コンクリートの部分的な突出で設計覆工厚の1/3以下のもの。
 ただし、変形が収束しているものに限る。
 2) 異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付時には安定が確認され、かつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。
 3) 鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。

吹付コンクリート出来形測定結果表 (様式 75)

様式-75

吹付コンクリート出来形測定結果表

測定者 _____

測 定 位 置	SP=										
地 山 分 類				設計吹付厚A	cm		規定値範囲	設計吹付厚以上			
測 点	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	平 均 値					
測定厚B (cm)											
設計厚との差 B-A (cm)											
測 点			平 均 値	(8)	(9)	(10)	平 均 値				
測定厚B (cm)											
設計厚との差 B-A (cm)											

記 事：

※ 施工延長40m 毎また、断面変化点毎に1断面。

※ 良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付厚の1/3以上を規定値とする。

ロックボルト出来形測定結果表 (様式 76)

様式-76									
ロックボルト出来形測定結果表									
測定断面 SP=					測定者				
展開図									
ロックボルト位置(延長方向)				設計値		ロックボルト深さ		設計深さ	
L 側	設計位置から の変移(cm)	R 側	設計位置から 変移(cm)	L 側	測定値 (m)	設計値との差 (cm)	R 側	測定値 (m)	設計値との差 (cm)
①		①		①			①		
②		②		②			②		
③		③		③			③		
④		④		④			④		
⑤		⑤		⑤			⑤		
⑥		⑥		⑥			⑥		
⑦		⑦		⑦			⑦		
⑧		⑧		⑧			⑧		
⑨		⑨		⑨			⑨		
⑩		⑩		⑩			⑩		
⑪		⑪		⑪			⑪		
⑫		⑫		⑫			⑫		
⑬		⑬		⑬			⑬		
⑭		⑭		⑭			⑭		
平均		平均		平均			平均		
記 事: ※ 施工延長40m 以内につき1箇所。									

ロックボルト出来形測定結果表 (様式 77)

様式-77							
ロックボルト出来形測定結果表							
測定断面 SP=				測定者			
展開図							
ロックボルト間隔 (周方向)							
設計値 (cm)	測定箇所L側	測定値 (cm)	設計値との差 (cm)	測定箇所R側	測定値 (cm)	設計値との差 (cm)	備考
	CL~①			CL~①			
	CL~②			CL~②			
	CL~③			CL~③			
	CL~④			CL~④			
	CL~⑤			CL~⑤			
	CL~⑥			CL~⑥			
	CL~⑦			CL~⑦			
	CL~⑧			CL~⑧			
	CL~⑨			CL~⑨			
	CL~⑩			CL~⑩			
	CL~⑪			CL~⑪			
	CL~⑫			CL~⑫			
	CL~⑬			CL~⑬			
	CL~⑭			CL~⑭			
	CL~			CL~			
	平均			平均			
記事： ※ 施工延長40m 以内に1箇所。 ※ 設計値については、以下のとおりとする。 ① $L = a/2$ ②~ $L = na + a/2$							

細骨材試験成績報告書 (吹付コンクリート) (様式 78)

様式-78 (トンネル工) 細骨材試験成績報告書(吹付コンクリート)									
採取責任者		採取地		採取年月日		年 月 日			
測定者		試験場所							
項目		試験方法		単位	規定値	試験値	備考		
項目試験		JIS等番号	JIS等名称						
粒	ふるいの呼び寸法 mm	10	JISA-1102 骨材のふるい分け試験	%	ふるいを通るものの重量百分率	100			
		5				90~100			
		2.5				80~100			
		1.2				50~ 90			
		0.6				25~ 65			
		0.3				10~ 35			
		0.15				2~ 10			
		—				合 計			
	粗粒率			—	—				
	細骨材 ふるい目の開き(mm)								
採取責任者		印 採取地		採取年月日		年 月 日			
測定者		印 試験箇所							
粒	ふるいの呼び寸法 mm	10	JISA-1102 骨材のふるい分け試験	%	ふるいを通るものの重量百分率	100			
		5				90~100			
		2.5				80~100			
		1.2				50~ 90			
		0.6				25~ 65			
		0.3				10~ 35			
		0.15				2~ 10			
		—				合 計			
	粗粒率			—	—				
	細骨材 ふるい目の開き(mm)								

吹付コンクリートの初期強度試験成績報告書 (様式 80)

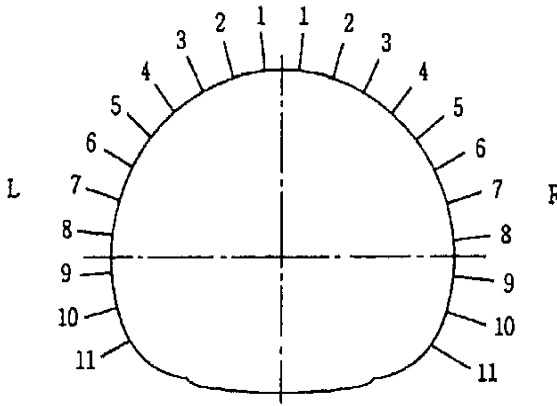
様式-80 (トンネル工)												
吹付コンクリートの初期強度試験成績報告書												
打 設 位 置						材令	1日	測 定 者				
養生環境	時 期	気 温 ℃		温 度 ℃		使用材料	セメント					
	供試体作成時						細 骨 材	(比重:)				
	引抜き試験時						粗 骨 材	(比重:)				
配 合	粗骨材の最大寸法 (mm)	スランブの範囲 (cm)	空気量の範囲 (%)	水・セメント比 (%)	細骨材率 (%)	単 位 量 (kg/m³)						
						水	W	セメントC	細骨材S	粗骨材G	急 結 剤	
示方配合												
現場配合												
記 事:												
供試体番号		1		2		3		備 考				
上部直径 D (mm)	1	平 均		平 均		平 均						
	2											
下部直径 W (mm)	1											
	2											
コーン高さ H (mm)	1											
	2											
コーンのせん断面積 A (mm²)												
供試体破壊形状												
油圧シリンダー受圧面積 (mm²)												
引抜きせん断力 PL (N/mm²)												
最大引抜き力 $P = PL \times a (N)$												
圧縮強度の換算係数 a		4.0		4.0		4.0						
圧 縮 強 度 σ (N/mm²)												
平均圧縮強度 σ (N/mm²)												
備 考:												
* $\sigma_1 = 5 \text{ N/mm}^2$												
* 1回/40m												

ロックボルト・ルーフボルトモルタルフロー値試験結果取りまとめ表 (様式 81)

様式-81 (トンネル工)					
ロックボルト・ルーフボルトモルタルフロー値試験結果取りまとめ表					
ロックボルト	ルーフボルト	規定値A:180 (+20mm)		測定者	
測点	パターン	フロー値B (mm)	規定値との差 (B-A)	備考	
SP					
SP					
SP					
SP					
SP					
SP					
SP					
SP					
SP					
SP					
SP					
SP					
SP					
SP					
SP					
SP					

※トンネル施工長40m 毎に1回

ロックボルト定着確認試験成績報告書 (様式 82)

様式-82 (トンネル工)																																													
ロックボルト定着確認試験成績報告書																																													
試験位置	SP=			測定者																																									
																																													
充填材				パターン																																									
ロックボルト				岩質																																									
試験方法																																													
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">試験箇所</th> <th style="width: 15%;">試験方法</th> <th style="width: 15%;">引張力</th> <th style="width: 20%;">試験結果</th> <th style="width: 30%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>L · R No</td> <td>A · B</td> <td>100KN</td> <td>合 · 否</td> <td></td> </tr> <tr> <td>L · R No</td> <td>A · B</td> <td>100KN</td> <td>合 · 否</td> <td></td> </tr> <tr> <td>L · R No</td> <td>A · B</td> <td>100KN</td> <td>合 · 否</td> <td></td> </tr> <tr> <td>L · R No</td> <td>A · B</td> <td>100KN</td> <td>合 · 否</td> <td></td> </tr> <tr> <td>L · R No</td> <td>A · B</td> <td>100KN</td> <td>合 · 否</td> <td></td> </tr> <tr> <td>L · R No</td> <td>A · B</td> <td>100KN</td> <td>合 · 否</td> <td></td> </tr> <tr> <td>L · R No</td> <td>A · B</td> <td>100KN</td> <td>合 · 否</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						試験箇所	試験方法	引張力	試験結果	備考	L · R No	A · B	100KN	合 · 否		L · R No	A · B	100KN	合 · 否		L · R No	A · B	100KN	合 · 否		L · R No	A · B	100KN	合 · 否		L · R No	A · B	100KN	合 · 否		L · R No	A · B	100KN	合 · 否		L · R No	A · B	100KN	合 · 否	
試験箇所	試験方法	引張力	試験結果	備考																																									
L · R No	A · B	100KN	合 · 否																																										
L · R No	A · B	100KN	合 · 否																																										
L · R No	A · B	100KN	合 · 否																																										
L · R No	A · B	100KN	合 · 否																																										
L · R No	A · B	100KN	合 · 否																																										
L · R No	A · B	100KN	合 · 否																																										
L · R No	A · B	100KN	合 · 否																																										
記 事： * 試験方法はトルクレンチ法・センターホールジャッキ法のA・Bのいずれかに○をつける。 * 図に照らし合わせて周方向の試験箇所を記入する。 * 試験結果の合否に○をつける * トルクレンチ法：5本/40m、センタージャッキ法：2本/80m																																													

電気設備検査報告書 (様式 83)

電 気 検 査 報 告 書

1. 工 事 名

2. 請 負 業 者

3. 現場代理人

総合判定

4. 下 請 業 者

5. 測定検査者

総合判定

6. 工 事 主 任

総合判定

7. 検 査 項 目

① 絶縁抵抗測定表 (様式-84)

② 接地抵抗測定表 (様式-85)

③ 電気工事点検報告書 (様式-86)

④ 完 成 図

⑤ 電気会社申請書類

絶縁抵抗測定表（様式 84）

[illegible]

接地抵抗測定表（様式 85）

[illegible]

電気工事点検報告書 (様式 86)

電 気 工 事 点 検 報 告 書

工事名

点検者

点 検 項 目	判 定
1. 設置場所と配線方法及び工事方法は適合しているか。	
2. 電球の種類及び太さはよいか。	
3. 極性色別に間違いはないか。	
4. 電線の接続はよいか。管内に接続点はないか。	
5. 地中ケーブルの埋設方法、外傷保護はよいか。	
6. 灯具などの取付方法はよいか。	
7. 安定器の取付はよいか。	
8. ポール内BOXの取付け及び接続はよいか。	
9. 電線の接続、端末処理 (器具端子を含む) はよいか。	
10. 設置工事はよいか。抵抗値は規程に適合しているか。	
11. 絶縁抵抗値は規程に適合しているか。	
12. 自動点滅器は正常に作動しているか。	
13. 調光回路は正常に作動しているか。	
その他 (上記にない工種での点検項目があれば記載すること。)	

工事施工協議簿(様式 87)

工 事 施 工 協 議 簿 (第 回)

発議者	☐ 発注者 ☐ 請負者	発議年月日	年 月 日	回答希望日	年 月 日
発議事項	☐ 指示 ☐ 協議 ☐ 通知 ☐ 承諾 ☐ 提出 ☐ 報告 ☐ 届出 ☐ 確認				
工事名					
(内容)					
添付図 葉、その他添付図書					
処 理 ・ 回 答	発 注 者	上記について ☐ 指示 ☐ 承諾 ☐ 協議 ☐ 通知 ☐ 受理 ☐ その他() ☐ 回答予定日を設定します。 回答予定日 年 月 日 【回答】			
		添付図 葉、その他添付図書 【中間】処理・回答日: 年 月 日 【最終】処理・回答日: 年 月 日 ☐ 工事内容の変更の対象と ☐ しない ☐ する。ただし、詳細については別途指示する。			
		請 負 者	上記について ☐ 了解 ☐ 協議 ☐ 提出 ☐ 報告 ☐ 届出 ☐ その他() ☐ 回答予定日を設定します。 回答予定日 年 月 日 【回答】		
			添付図 葉、その他添付図書 【中間】処理・回答日: 年 月 日 【最終】処理・回答日: 年 月 日		

	課長	係長	工事監督員
確 認 欄	中間時		
	最終時		

	現場代理人	監理技術者	主任技術者
確 認 欄	中間時		
	最終時		

- ※注) 1 該当する□にレを記入すること。
 2 確認欄には、押印又はボールペンでサインすること。
 3 この様式により難しい場合は、この様式に準じた別の様式を使用できる。

立会願 (様式 88)

年 月 日

(監督員) 様

(受注者名)
現場代理人

立 会 願

下記項目について、立会をお願いします。

工 事 名				
項 目	内 容			
希 望 日 時	年 月 日 時			

年 月 日

上記項目について、年 月 日立会を実施した。

工事主任	工 事 員		現場代理人	主任 (監 理) 技 術 者

(主 旨)

本様式は、受注者が監督職員の立会を受ける必要がある場合に監督職員に提出するものである。

(作成上の注意)

1. 本様式は現場代理人が保管することとし、工事主任はその写しを受け取ること。
2. この様式により難しい場合は、この様式に準じた別の様式を使用できる。

段階確認 (様式 89)

年 月 日

(監督員) 様

(受注者名)
現場代理人

段 階 確 認 願 (第 回)

下記について、段階確認をお願いします。

記

段階確認の内容

工事名			実施希望日	年 月 日		
工 種	細 目 等	品 質 規 格	区 域 等	数 量 等	呼 称	備 考

上記の段階確認について、以下のとおり実施します。

工事主任

実施日時	年 月 日 時から	実施者名	
実施場所	☐ 工事現場、 ☐ 製作工場、 ☐ （実施場所）		
実施方法	☐ 臨 場、 ☐ 机 上		
必要書類	☐ 設計図書、 ☐ 測量結果、 ☐ 出来形図等、 ☐ 品質規格証明等 ☐ 施工管理記録、 ☐ 写真、 ☐ （その他必要書類等）		
特記事項			

年 月 日 の段階確認の結果、設計図書のとおり施工されて
☐いる。 ☐いない。 ☐詳細については、別途指示する。

年 月 日

工事主任

(主 旨)

本様式は、受注者が段階確認を受ける必要がある場合に監督職員に提出するものである。

(作成上の注意)

1. 該当する□内にレを記入すること。
2. 本様式は現場代理人が保管することとし、工事主任はその写しを受け取ること。
3. この様式により難しい場合は、この様式に準じた別の様式を使用できる。

自由様式

ひび割れ調査票 (1) (様式 90)

ひび割れ調査票 (1)

工 事 名	
請 負 社 名	
構 造 物 名	(工種・種別・細別等構造物が判断できる名称)
現場代理人名	
主任技術者名	
管理技術者名	
測 定 者 名	

位 置	測定No.		
構 造 物 形 式			
構 造 物 寸 法			
竣 工 年 月 日	年 月 日		
適 用 仕 様 書			
コンクリートの種類			
コンクリートの設計基準強度	N/mm ²	コンクリートの呼び強度	N/mm ²
海岸からの距離	会場、海岸沿い、海岸から km		
周 辺 環 境 ①	工場、住宅、商業地、農地、山地、その他 ()		
周 辺 環 境 ②	普通地、雪寒地、その他 ()		
直下周辺環境	河川・海、道路、その他 ()		
	構造物位置図 (1/50,000 を標準とする) 添付しない場合は (別添資料－○参照) と記入し、資料提出		

1. この様式により難しい場合は、この様式に準じた別の様式を使用できる。

ひび割れ調査票 (2) (様式 91)

ひび割れ調査票 (2)

構造物一般図

添付しない場合は
(別添資料一〇参照) と記入し、資料提出

1. この様式により難しい場合は、この様式に準じた別の様式を使用できる。

ひび割れ調査票 (3) (様式 92)

ひび割れ調査票 (3)

ひび割れ	有、無	本数： 1～2 本、 3～5 本、 多数 ひび割れ総延長 約 m 最大ひび割れ幅 (○で囲む) 0.2 mm 以下、 0.3 mm 以下 0.4 mm 以下、 0.5 mm 以下 0.6 mm 以下、 0.8 mm 以下 _____ mm
		発生時期 (○で囲む) 数時間～1 日、 数日、 数 10 日以上、 不明
		規則性： 有、 無
		形態： 網状、 表層、 貫通、 表層 or 貫通
		方向： 主鉄筋方向、 直角方向、 両方向 鉄筋とは無関係

1. この様式により難しい場合は、この様式に準じた別の様式を使用できる。

ひび割れ調査票 (4) (様式 93)

ひび割れ調査票 (4)

ひび割れ発生状況のスケッチ図

添付しない場合は
(別添資料一〇参照) と記入し、資料提出

1. この様式により難しい場合は、この様式に準じた別の様式を使用できる。

ひび割れ調査票 (5) (様式 94)

ひび割れ調査票 (5)

構造物名 (工種・種別・細別等構造物が判断できる名称)

ひび割れ発生箇所の写真

添付しない場合は
(別添資料一〇参照) と記入し、資料提出

1. この様式により難しい場合は、この様式に準じた別の様式を使用できる。

市民の声整理票 (様式 95)

「市民の声」整理表

受付番号		受付月日	
受付者 (会社名) (氏名)			
受付方法	1. 来訪 2. 電話 3. 手紙・文書 4. その他 ()		
工事名			
申出人氏名 (団体名)		申出人(住所・ 連絡先)	
受付件名			
受付内容			
対応月日			
対応者 (会社名) (氏名)			
対応内容			
備考欄			

1. この様式により難しい場合は、この様式に準じた別の様式を使用できる。

工事特性・創意工夫・社会性等に関する実施状況 (様式 96)

工事特性・創意工夫・社会性等に関する実施状況

工 事 名	請 負 者 名	
項 目	評 価 内 容	備 考
☐ 工事特性 工事全体を通して他の類似工事に比べて、特異な施行条件への対応	☐ 厳しい自然・地盤条件への対応	・ 特殊な地盤条件 ・ 雨・雪・風・気温の自然条件 ・ 急峻な地形及び土石流危険渓流内 ・ 動植物等の自然環境保全配慮 ・ その他[理由:]
	☐ 都市部等の作業環境、社会条件への対応	・ 地盤の変形、近接構造部、地中埋設物への配慮 ・ 周辺環境条件により、作業条件、工程等への影響配慮 ・ 周辺住民等への騒音・振動を特に影響配慮 ・ 作業スペース制約、現道上の交通規制 ・ 緊急時に対応が特に必要な工事 ・ その他[理由:]
	☐ 構造物の特殊性への対応	・ 対象構造物の規模が特殊な工事 ・ 対象構造物の形状が複雑である等による施工条件変化 ・ その他
	☐ 長期工事における安全確保への対応	・ 12ヶ月を超える工期で、事故がなく完成した工事（全面一時中止期間は除く） ※但し、文書注意に至らない事故は除く ・ その他[理由:]
☐ 創意工夫 「工事特性」で評価するほどでない軽微な工夫	☐ 準備・後片付け	
	☐ 施工関係	・ 施工に伴う機械、器具、工具、装置類 ・ 二次製品、代替製品の利用 ・ 施工方法の工夫 ・ 施工環境の改善 ・ 仮設計画の工夫 ・ 施工管理、品質管理の工夫
	☐ 品質管理	・ 土工、設備、電気の品質向上 ・ コンクリートの材料、打設、養生に関する工夫
	☐ 安全衛生管理	・ 安全施設、仮設備の配慮 ・ 安全教育、講習会、パトロールの工夫 ・ 作業環境の改善 ・ 交通事故防止の工夫
	☐ その他	
☐ 社会性等 地域社会や住民に対する貢献	☐ 地域の貢献等	・ 地域の自然環境保全、動植物の保護 ・ 現場環境の地域への調和 ・ 地域住民とのコミュニケーション ・ ボランティアの実施

1. 該当する項目の□にレマーク記入。
2. 具体的内容の説明として、写真・ポンチ絵等を説明資料に整理。
3. この様式により難しい場合は、この様式に準じた別の様式を使用できる。

工事特性・創意工夫・社会性等に関する実施状況（説明資料）（様式 97）

工事特性・創意工夫・社会性等に関する実施状況（説明資料）

工 事 名				／
項 目		評価内容		
提案内容				
(説 明)				
(添付図)				

1. 説明資料は簡潔に作成するものとし、必要に応じて別葉とする。
2. 工事特性は、都市部等や厳しい自然条件への対応状況がわかる資料を添付すること。
3. 創意工夫等の説明は、①改善・工夫の内容②効果内容(工費・工期)③施工上の留意点等を具体的に記載すること。
4. この様式により難しい場合は、この様式に準じた別の様式を使用できる。

廃止

雨量測定集計表 (様式 98)

雨量測定集計表

工 事 負 担 者 名 人	測 定 者																								備 考									
	日付	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日		24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日	
時間																																		
1時間																																		
2時間																																		
3時間																																		
4時間																																		
5時間																																		
6時間																																		
7時間																																		
8時間																																		
9時間																																		
10時間																																		
11時間																																		
12時間																																		
13時間																																		
14時間																																		
15時間																																		
16時間																																		
17時間																																		
18時間																																		
19時間																																		
20時間																																		
21時間																																		
22時間																																		
23時間																																		
24時間																																		
日降雨量計																																		
平均時間雨量																																		
最大降雨時間																																		
最大時間雨量																																		
その他																																		

注：欠測日や降雨が観測されない日及び時間は、明確に区分できるように記入すること。

(様式 99)

年 月 日

施 工 体 制 台 帳

[会社名・事業者ID] _____

[事業所名・現場ID] _____

建設業の許可	許可業種	許可番号		許可(更新)年月日
	工事業	大臣 知事	特定 一般 第 号	年 月 日
	工事業	大臣 知事	特定 一般 第 号	年 月 日

工事名称及び 工事内容					
発注者及び 住 所	〒 _____				
工 期	自 至	年	月	日	契 約 日 年 月 日

契 約 所	区 分	名 称	住 所
	元請契約		
	下請契約		

健康保険等の 加 入 状 況	保険加入の 有 無	健 康 保 険		厚生年金保険		雇 用 保 険	
		加 入	未加入 適用除外	加 入	未加入 適用除外	加 入	未加入 適用除外
	事 業 所 整 理 記 号 等	区 分	営業所の名称	健康保険	厚生年金保険	雇用保険	
		元請契約					
		下請契約					

発注者の 監 督 員 名		権限及び意見 申 出 方 法	
監 督 員 名		権限及び意見 申 出 方 法	
現 代 理 人 名		権限及び意見 申 出 方 法	
監理(主任) 技 術 者 名	専 任 非専任	資 格 内 容	
監理技術者 補 佐 名		資 格 内 容	
専 門 技 術 者 名		専 門 技 術 者 名	
資 格 内 容		資 格 内 容	
担 当 工 事 内 容		担 当 工 事 内 容	

一号特定技能外国人の従 事の状況(有無)	有 無	外国人建設就労者の 従事の状況(有無)	有 無	外国人技能実習生の 従事の状況(有無)	有 無
-------------------------	-----	------------------------	-----	------------------------	-----

(記入要領)

1. 上記の記載事項が発注者との請負契約書や下請契約書に記載のある場合は、その写しを添付することにより記載を省略することができる。
2. 監理(主任)技術者の配置状況について「専任・非専任」のいずれかに○印を付ける※こと。※選択可
監理技術者が他現場と兼任(非専任)する場合は、監理技術者補佐(専任)を配置すること。
3. 専門技術者には、土木・建築一式工事を施工する場合等でその工事に含まれる専門工事を施工するために必要な主任技術者を記載する。(監理(主任)技術者が専門技術者としての資格を有する場合は専門技術者を兼ねることができる)
4. 健康保険等の加入状況の記入要領は次の通り。
- ① 各保険の適用を受ける営業所について、届出を行っている場合には「加入」、行っていない場合(適用を受ける営業所が複数あり、そのうち一部について行っていない場合を含む)は「未加入」に○印を付ける※こと。元請契約又は下請契約に係る全ての営業所で各保険の適用が除外される場合は「適用除外」に○を付ける※こと。※選択可
- ② 元請契約欄には元請契約に係る営業所について、下請契約欄には下請契約に係る営業所について記載すること。なお、元請契約に係る営業所と下請契約に係る営業所が同一の場合には、下請契約の欄に「同上」と記載すること。
- ③ 健康保険の欄には、事業所整理記号及び事業所番号(健康保険組合にあっては組合名)を記載すること。一括適用の承認に係る営業所の場合は、本店の整理記号及び事業所番号を記載すること。
- ④ 厚生年金保険の欄には、事業所整理記号及び事業所番号を記載すること。一括適用の承認に係る営業所の場合は、本店の整理記号及び事業所番号を記載すること。
- ⑤ 雇用保険の欄には、労働保険番号を記載すること。継続事業の一括の認可に係る営業所の場合は、本店の労働保険番号を記載すること。

(様式 100)

年 月 日

《下請負人に関する事項》

会社名・事業者ID			代表者名		
住所 電話	(Tel. 011 - -)				
工事名称 及び 工事内容					
工期	自 年 月 日	至 年 月 日	契約日	年 月 日	
建設業の許可	施工に必要な許可業種		許可番号		許可(更新)年月日
	工事業		大臣 特定 一般	第 号	年 月 日
	工事業		大臣 特定 一般	第 号	年 月 日
健康保険等の加入状況	保険加入の有無	加入	未加入	厚生年金保険	
		加入	未加入	加入	未加入
	事業所整理記号等	営業所の名称	健康保険	厚生年金保険	雇用保険
現場代理人名		安全衛生責任者名			
権限及び意見 申出方法		安全衛生推進者名			
※主任技術者名		専任 非専任		雇用管理責任者名	
資格内容		※専門技術者名			
		資格内容			
		担当工事内容			
一号特定技能外国人の従事状況(有無)	有 無	外国人建設就労者の従事状況(有無)	有 無	外国人技能実習生の従事状況(有無)	有 無

※ [主任技術者、専門技術者の記入要領]

1. 主任技術者の配属状況について [専任・非専任] のいずれかに○印を付ける※こと。※選択可

2. 専門技術者には、土木・建築一式工事を施工する場合等でその工事に含まれる専門工事を施工するために必要な主任技術者を記載する。(一式工事の主任技術者が専門工事の主任技術者としての資格を有する場合は専門技術者を兼ねることができる。)
複数の専門工事を施工するために複数の専門技術者を要する場合は適宜欄を設けて全員を記載する。

3. 主任技術者の資格内容 (該当するものを選んで記入する)
① 実務経験年数による場合
1) 大学卒 [指定学科] 3年以上の実務経験
2) 短期大学卒 [指定学科] 3年以上の実務経験
3) 専門学校卒 (専門士又は高度専門士) [指定学科] 3年以上の実務経験

4) 高等専門学校卒 [指定学科] 3年以上の実務経験
5) 専門学校卒 [指定学科] 5年以上の実務経験
6) 高校卒 [指定学科] 5年以上の実務経験
7) 上記1～6以外 10年以上の実務経験

② 資格等による場合
1) 建設業法 [技術検定]
2) 建築士法 [建築士試験]
3) 技術士法 [技術士試験]
4) 電気工事士法 [電気工事士試験]
5) 電気事業法 [電気主任技術者国家試験等]
6) 消防法 [消防設備士試験]
7) 職業能力開発促進法 [技能検定]
8) 登録基幹技能者
9) その他 (民間資格等)

※ [健康保険等の加入状況の記入要領]

1. 下請契約に係る営業所以外の営業所で再下請契約を行う場合には、事業所整理記号等の欄を「下請契約」と「再下請契約」の区分に分けて、各保険の事業所整理記号等を記載すること。

2. 各保険の適用を受ける営業所について、届出を行っている場合には「加入」、行っていない場合 (適用を受ける営業所が複数あり、そのうち一部について行っていない場合を含む) は「未加入」に○印を付ける※こと。下請契約又は再下請契約に係る全ての営業所で各保険の適用が除外される場合は「適用除外」に○印を付ける※こと。※選択可

3. 健康保険の欄には、事業所整理記号及び事業所番号 (健康保険組合にあっては組合名) を記載すること。一括適用の承認に係る営業所の場合は、本店の整理記号及び事業所番号を記載すること。

4. 厚生年金保険の欄には、事業所整理記号及び事業所番号を記載すること。一括適用の承認に係る営業所の場合は、本店の整理記号及び事業所番号を記載すること。

5. 雇用保険の欄には、労働保険番号を記載すること。継続事業の一括の認可に係る営業所の場合は、本店の労働保険番号を記載すること。

(様式 101)

工事作業所災害防止協議会兼施工体系図

発注者名

工事名称

工期

自年月日
至年月日

元請名・事業者ID
監督員名
監理技術者名
監理技術者補佐名
専門技術者名
担当工事内容

元方安全衛生管理者

会長

統括安全衛生責任者

副会長

書記

(注) 一次下請負人となる警備会社については、商号又は名称、現場責任者名、業務期間を記入する。

次下請

会社名・事業者ID
代表者名
許可番号大臣特定第000000号
安全衛生責任者
主任技術者
特定専門工事の該当有・無
専門技術者
担当工事内容

〇〇〇〇工事

工期年月日～年月日

次下請

会社名・事業者ID
代表者名
許可番号大臣特定第000000号
安全衛生責任者
主任技術者
特定専門工事の該当有・無
専門技術者
担当工事内容

〇〇〇〇工事

工期年月日～年月日

次下請

会社名・事業者ID
代表者名
許可番号大臣特定第000000号
安全衛生責任者
主任技術者
特定専門工事の該当有・無
専門技術者
担当工事内容

〇〇〇〇工事

工期年月日～年月日

次下請

会社名・事業者ID
代表者名
許可番号大臣特定第000000号
安全衛生責任者
主任技術者
特定専門工事の該当有・無
専門技術者
担当工事内容

〇〇〇〇工事

工期年月日～年月日

次下請

会社名・事業者ID
代表者名
許可番号大臣特定第000000号
安全衛生責任者
主任技術者
特定専門工事の該当有・無
専門技術者
担当工事内容

〇〇〇〇工事

工期年月日～年月日

次下請

会社名・事業者ID
代表者名
許可番号大臣特定第000000号
安全衛生責任者
主任技術者
特定専門工事の該当有・無
専門技術者
担当工事内容

〇〇〇〇工事

工期年月日～年月日

次下請

会社名・事業者ID
代表者名
許可番号大臣特定第000000号
安全衛生責任者
主任技術者
特定専門工事の該当有・無
専門技術者
担当工事内容

〇〇〇〇工事

工期年月日～年月日

次下請

会社名・事業者ID
代表者名
許可番号大臣特定第000000号
安全衛生責任者
主任技術者
特定専門工事の該当有・無
専門技術者
担当工事内容

〇〇〇〇工事

工期年月日～年月日

(様式 102)

〈名札の例〉

監理 (主任) 技術者	
写真 2cm×3cm 程度	氏 名 ○ ○ ○ ○
	工事名 ○ ○ 改良工事
	工 期 自 ○年○月○日 至 ○年○月○日
	会 社 ◇ ◇建設株式会社 印

注 1) 用紙の大きさは名刺サイズ以上とする。

注 2) 所属会社の社印とする。

監理技術者補佐	
写真 2cm×3cm 程度	氏 名 ○ ○ ○ ○
	工事名 ○ ○ 改良工事
	工 期 自 ○年○月○日 至 ○年○月○日
	会 社 ◇ ◇建設株式会社 印

施工体制台帳作成建設工事通知

年 月 日

下請負業者の皆さんへ

【元請負業者】

会 社 名 _____

事業所名 _____

施工体制台帳作成建設工事の通知

当工事は、建設業法(昭和24年法律第100号)第24条の8第1項の規定に基づき施工体制台帳の作成を要する建設工事です。

この建設工事に従事する下請負業者の方は、一次、二次等の層次を問わず、その請け負った建設工事を他の建設業を営む者(建設業の許可を受けていない者を含みます。)に請け負わせた時は、速やかに次の手続きを実施してください。

なお、一度提出いただいた事項や書類に変更が生じた時も、遅滞なく、変更の年月日を付記して再提出しなければなりません。

イ 再下請負通知書の提出

建設業法第24条の8第2項の規定により、遅滞なく建設業法施行規則(昭和24年建設省令第14号)第14条の4に規定する再下請負通知書により、自社の建設業登録や健康保険等の加入状況、及び主任技術者等の選任状況及び再下請負契約がある場合はその状況を、直近上位の注文者を通じて元請負業者に報告されるようお願いいたします。

一次下請負業者の方は、後次の下請負業者から提出される再下請負通知を取りまとめ、下請負業者編成表とともに提出してください。

ロ 再下請負業者に対する通知

他に下請負を行わせる場合は、この書面を複写し交付して、「もしさらに他の者に工事を請け負わせたときは、『再下請負通知書』を提出するとともに、関係する後次の下請負業者に対してこの書面の写しの交付が必要である」旨を伝えなければなりません。

なお、当工事の概要は次の通りですが、不明の点は下記の担当者に照会ください。

元 請 名			
発 注 者 名			
工 事 名			
元 請 け 監 督 員 名		権 限 及 び 意 見 申 出 方 法	
提出先及び 担 当 者	担当者： _____ TEL： _____		

(様式 104)

年 月 日

建設業法・雇用改善法等に基づく届出書(変更届)
(再下請負通知書様式)

直近上位の 注文者名	【報告下請負業者】 〒
現場代理人名 (所長名)	殿 住 所
元請名称・ 事業者ID	TEL
	FAX
	会社名・ 事業者ID
	代表者名

《自社に対する事項》

工事名称 及 工事内容								
工 期	自	年	月	日	注文者との 契 約 日			
建設業の可 許	施工に必要な許可業種	許 可 番 号		許可(更新)年月日				
	工事業	大臣 特定 知事 一般	第 号	年 月 日				
	工事業	大臣 特定 知事 一般	第 号	年 月 日				
健康保険等の 加 入 状 況	保険加入の 有 無	健康保険		厚生年金保険		雇用保険		
		加 入	未加入	加 入	未加入	加 入	未加入	
	事業所 整理記号等	適用除外		適用除外		適用除外		
		営業所の名称		健康保険	厚生年金保険	雇用保険		
監督員名						安全衛生責任者名		
権限及び意見 申 出 方 法						安全衛生推進者名		
現場代理人名						雇用管理責任者名		
権限及び意見 申 出 方 法						※専門技術者名		
主任技術者名	専 任 非専任						資 格 内 容	
資 格 内 容						担当工事内容		
一号特定技能外国人の 従事の状況(有無)	有	無	外国人建設就労者の 従事の状況(有無)	有	無	外国人技能実習生の 従事の状況(有無)	有	

- (記入要領)
- 報告下請業者は直近上位の注文者に提出すること。
 - 再下請負契約がある場合は《再下請負契約関係》欄を記入するとともに、次の契約書類の写しを提出する。
なお、再下請が複数ある場合は、《再下請負契約関係》欄をコピーして使用する。
①契約書、又は②基本契約書及び注文書・請書、又は③基本契約約款及び注文書・請書
 - 一次下請負業者は、二次下請負業者以下の業者から提出された書類とともに下請負業者編成表を作成の上、元請けに届出ること。
 - この届出事項に変更のあった場合は直ちに再提出すること。

※〔健康保険等の加入状況の記入要領〕

- 各保険の適用を受ける営業所について、届出を行っている場合には「加入」、行っていない場合(適用を受ける営業所が複数あり、そのうち一部について行っていない場合を含む)は「未加入」に○印を付ける※こと。下請契約又は再下請契約に係る全ての営業所で各保険の適用が除外される場合は「適用除外」に○印を付ける※こと。※選択可
- 健康保険の欄には、事業所整理記号及び事業所番号(健康保険組合にあっては組合名)を記載すること。一括適用の承認に係る営業所の場合は、本店の整理記号及び事業所番号を記載すること。
- 厚生年金保険の欄には、事業所整理記号及び事業所番号を記載すること。一括適用の承認に係る営業所の場合は、本店の整理記号及び事業所番号を記載すること。
- 雇用保険の欄には、労働保険番号を記載すること。継続事業の一括の認可に係る営業所の場合は、本店の労働保険番号を記載すること。

(様式 105)

年 月 日

《再下請負関係》 再下請負業者及び再下請負契約関係について次のとおり報告いたします。

会社名・ 事業者 ID			代表者名			
住所 電話	〒 ー (Tel. 011 ー ー)					
工事名称 及び 工事内容						
工期	自 年 月 日	至 年 月 日	契約日	年 月 日		
建設業の 許可	施工に必要な許可業種	許可番号		許可(更新)年月日		
	工事業	大臣 知事	特定 一般	第 号	年 月 日	
	工事業	大臣 知事	特定 一般	第 号	年 月 日	
健康保険等の 加入状況	保険加入の 有 無	健康保険		厚生年金保険		
		加 入 未加入 適用除外	加 入 未加入 適用除外	雇 用 保 険 加 入 未加入 適用除外		
	事業所 整理記号等	営業所の名称		健康保険	厚生年金保険	雇用保険
現場代理人名			安全衛生責任者名			
権限及び意見 申出方法			安全衛生推進者名			
※主任技術者名			雇用管理責任者名			
専任 非専任			※専門技術者名			
資格内容			資格内容			
			担当工事内容			
一号特定技能外国人の従 事の状況 (有無)	有 無	外国人建設就労者の 従事の状況 (有無)	有 無	外国人技能実習生の 従事の状況 (有無)	有 無	

※〔主任技術者、専門技術者の記入要領〕

- 主任技術者の配属状況について〔専任・非専任〕のいずれかに○印を付ける※こと。※選択可
- 専門技術者には、土木・建築一式工事を施工する場合等でその工事に含まれる専門工事を施工するために必要な主任技術者を記載する。(一式工事の主任技術者が専門工事の主任技術者としての資格を有する場合は専門技術者を兼ねることができる。)
複数の専門工事を施工するために複数の専門技術者を要する場合は適宜欄を設けて全員を記載する。
- 主任技術者の資格内容 (該当するものを選んで記入する)
 - 実務経験年数による場合
 - 大学卒〔指定学科〕 3年以上の実務経験
 - 短期大学卒〔指定学科〕 3年以上の実務経験
 - 専門学校卒(専門士又は高度専門士)〔指定学科〕 3年以上の実務経験

- 高等専門学校卒〔指定学科〕 3年以上の実務経験
- 専門学校卒〔指定学科〕 5年以上の実務経験
- 高校卒〔指定学科〕 5年以上の実務経験
- 上記1～6以外 10年以上の実務経験

② 資格等による場合

- 建設業法〔技術検定〕
- 建築士法〔建築士試験〕
- 技術士法〔技術士試験〕
- 電気工事士法〔電気工事士試験〕
- 電気事業法〔電気主任技術者国家試験等〕
- 消防法〔消防設備士試験〕
- 職業能力開発促進法〔技能検定〕
- 登録基幹技能者
- その他 (民間資格等)

※〔健康保険等の加入状況の記入要領〕

- 各保険の適用を受ける営業所について、届出を行っている場合には「加入」、行っていない場合 (適用を受ける営業所が複数あり、そのうち一部について行っていない場合を含む) は「未加入」に○印を付ける※こと。下請契約又は再下請契約に係る全ての営業所で各保険の適用が除外される場合は「適用除外」に○印を付ける※こと。※選択可
- 健康保険の欄には、事業所整理記号及び事業所番号 (健康保険組合にあつては組合名) を記載すること。一括適用の承認に係る営業所の場合は、本店の整理記号及び事業所番号を記載すること。
- 厚生年金保険の欄には、事業所整理記号及び事業所番号を記載すること。一括適用の承認に係る営業所の場合は、本店の整理記号及び事業所番号を記載すること。
- 雇用保険の欄には、労働保険番号を記載すること。継続事業の一括の認可に係る営業所の場合は、本店の労働保険番号を記載すること。

(様式 106)

年 月 日

下請負業者編成表

(一次下請負業者＝作成下請負業者)

工 事	会社名・事業者ID		
	代 表 者 名		
	許 可 番 号	大臣 特定	第000000号
	安全衛生責任者		
	主 任 技 術 者		
	特定専門工事の該当	有 ・ 無	
	専 門 技 術 者		
	担当工事内容		
工 期	年 月 日 ～ 年 月 日		

(二次下請負業者)

工 事	会社名・事業者ID		
	代 表 者 名		
	許 可 番 号	大臣 特定	第000000号
	安全衛生責任者		
	主 任 技 術 者		
	特定専門工事の該当	有 ・ 無	
	専 門 技 術 者		
	担当工事内容		
工 期	年 月 日 ～ 年 月 日		

(二次下請負業者)

工 事	会社名・事業者ID		
	代 表 者 名		
	許 可 番 号	大臣 特定	第000000号
	安全衛生責任者		
	主 任 技 術 者		
	特定専門工事の該当	有 ・ 無	
	専 門 技 術 者		
	担当工事内容		
工 期	年 月 日 ～ 年 月 日		

(二次下請負業者)

工 事	会社名・事業者ID		
	代 表 者 名		
	許 可 番 号	大臣 特定	第000000号
	安全衛生責任者		
	主 任 技 術 者		
	特定専門工事の該当	有 ・ 無	
	専 門 技 術 者		
	担当工事内容		
工 期	年 月 日 ～ 年 月 日		

(三次下請負業者)

工 事	会社名・事業者ID		
	代 表 者 名		
	許 可 番 号	大臣 特定	第000000号
	安全衛生責任者		
	主 任 技 術 者		
	特定専門工事の該当	有 ・ 無	
	専 門 技 術 者		
	担当工事内容		
工 期	年 月 日 ～ 年 月 日		

(三次下請負業者)

工 事	会社名・事業者ID		
	代 表 者 名		
	許 可 番 号	大臣 特定	第000000号
	安全衛生責任者		
	主 任 技 術 者		
	特定専門工事の該当	有 ・ 無	
	専 門 技 術 者		
	担当工事内容		
工 期	年 月 日 ～ 年 月 日		

(三次下請負業者)

工 事	会社名・事業者ID		
	代 表 者 名		
	許 可 番 号	大臣 特定	第000000号
	安全衛生責任者		
	主 任 技 術 者		
	特定専門工事の該当	有 ・ 無	
	専 門 技 術 者		
	担当工事内容		
工 期	年 月 日 ～ 年 月 日		

(四次下請負業者)

工 事	会社名・事業者ID		
	代 表 者 名		
	許 可 番 号	大臣 特定	第000000号
	安全衛生責任者		
	主 任 技 術 者		
	特定専門工事の該当	有 ・ 無	
	専 門 技 術 者		
	担当工事内容		
工 期	年 月 日 ～ 年 月 日		

(四次下請負業者)

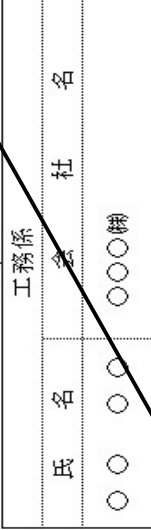
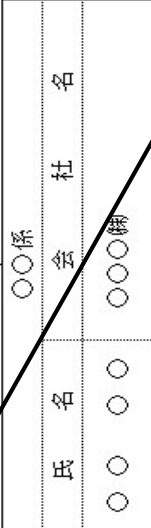
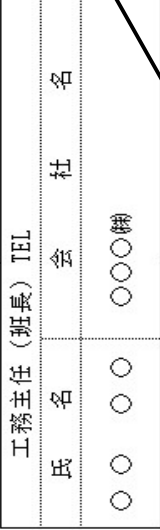
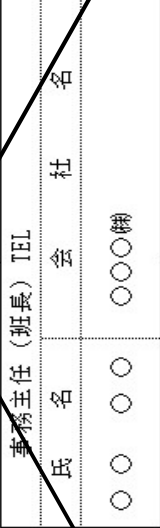
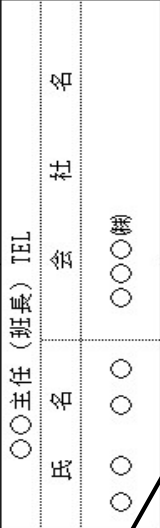
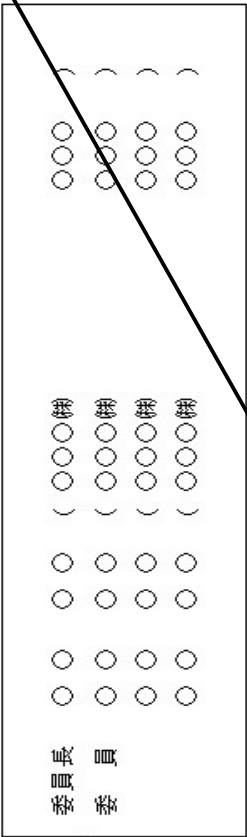
工 事	会社名・事業者ID		
	代 表 者 名		
	許 可 番 号	大臣 特定	第000000号
	安全衛生責任者		
	主 任 技 術 者		
	特定専門工事の該当	有 ・ 無	
	専 門 技 術 者		
	担当工事内容		
工 期	年 月 日 ～ 年 月 日		

(四次下請負業者)

工 事	会社名・事業者ID		
	代 表 者 名		
	許 可 番 号	大臣 特定	第000000号
	安全衛生責任者		
	主 任 技 術 者		
	特定専門工事の該当	有 ・ 無	
	専 門 技 術 者		
	担当工事内容		
工 期	年 月 日 ～ 年 月 日		

- (記入要領)
- 1 一次下請負業者は、二次下請負業者以下の業者から提出された「届出書」(様式1号一甲)に基づいて本表を作成の上、元請に申し出ること。
 - 2 この下請負業者編成表でまとめきれない場合には、本様式をコピーするなどして適宜使用すること。

共同企業体編成表



- 注
1. 本表は共同企業体の工事施行体制を明示することにより、その指導・監督に役立てるものであり、そのための標準を示したもので、工事内容・施行体制の差異により、本表と異なる様式でもさしつかえない。
 2. 本表は、施工体制台帳とともに提出し、記載内容に変更があった場合は「変更届」と明記して提出すること。

(様式108)

「特定外来生物の防除」の看板(記載例)

※看板の規格(A3サイズ)

・看板は白地とし、文字は黒色とする。

お 知 ら せ

〇〇〇〇工事は、特定外来生物による生態系等に係る被害防止に関する法律第18条第1項に基づき、札幌市による防除を実施しています。

工 事 名 :

工事期間 :

受 注 者 :

責 任 者 :

発 注 者 : 札幌市〇〇局(区)□□□□□部
△△△△△課

電 話 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

特定外来生物の名称 : 〇〇〇〇〇

連 絡 先 : □□□□建設株式会社

電 話 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

(様式109)

特定外来生物防除従事者証交付願

年 月 日

市長名 様

受注者 住 所

氏 名 ○印

工事番号

工 事 名

上記工事の防除作業に下記の者を従事させますので従事者証について、次のとおり交付願います。

なお、当該作業が完了したときは、速やかに返納することを申し添えます。

記

- 1 防除作業期間 令和 年 月 日 から 令和 年 月 日
- 2 特定外来生物の名称 ○○○○○

No.	従事者氏名	所 属		備 考
		会 社 名	住 所	

- 注 1 「所属」欄は、会社名及びその住所を記載すること。
- 2 「作業期間」欄は、作業実施に必要な期間とする。
- 3 顔写真の提出については、別途協議による。
- 4 備考欄には従事する作業の名称を記載すること。

(様式 110)

オオハンゴンソウ等特定外来生物防除従事者証 (例)

< 表面 >

オオハンゴンソウ等特定外来生物防除従事者証	
札幌市第〇〇〇〇号	
特定外来生物の生態系等に係る被害の防止に関する法律第18条第1項に基づく防除従事者であることを証明します。	
氏 名	〇〇 〇〇
所 属	株式会社〇〇
防除区域	札幌市内全域
防除の方法	抜き取り及び刈り取りによる
防除期間	年 月 日～平成 年 月 日
年 月 日	
札幌市長	
市 農 印	

< 裏面 >

注意事項

- この従事者証は、オオハンゴンソウ、オオキンケイギク又はオオフサモの防除に従事する際に、必ず携帯してください。
- この従事者証は、防除期間終了後30日以内に、市に返納するとともに、「防除実施報告」により、防除の実施結果を報告してください。

確認 オオハンゴンソウ・オオキンケイギク・オオフサモ
年 月 日付け環北地野許第 号

防除対象としない特定外来生物がある場合は、二重線で消してください。

※ 縦×横：55mm×91mm

(様式111)

オオハンゴンソウ等特定外来生物防除実施報告

特定外来生物の種類	防除実施期間	防除場所	防除数量 (kg)	備考

※ 「特定外来生物の種類」には、オオハンゴンソウ、オオキンケイギク又はオオフサモを記載してください。

レディーミクストコンクリート単位水量測定要領 (案)

1. 目 的

この要領は、札幌市が所管する土木工事におけるレディーミクストコンクリートの単位水量測定について、測定方法及び管理基準等を規定するものとする。

2. 適用範囲

1 日当りコンクリート種別ごとの使用量が100m³以上施工する場合に適用するものとする。ただし、水中コンクリートや転圧コンクリート等の特殊なコンクリートは除くものとする。

3. 測定機器

- (1) レディーミクストコンクリートの単位水量測定機器については、エアメータ法かこれと同程度、あるいは、それ以上の精度を有する測定器で、キャリブレーションされた機器を使用するものとする。
- (2) 施工計画書には、試験方法を記載するとともに、事前に機器緒元表、単位水量算定方法を工事監督員に提出するものとする。

4. 品質の管理

- (1) 受注者は、単位水量を含む正確な配合設計書を確認するものとする。
- (2) 受注者は、施工現場において、打込み前のレディーミクストコンクリートの単位水量を本要領に基づき測定しなければならない。

5. 単位水量の管理記録

受注者は、測定結果をその都度記録（プリント出力機能がある測定機器を使用した場合は、プリント出力）・保管するとともに、測定状況写真を撮影・保管し、工事監督員から請求があった場合は直ちに提示するとともに、検査時に提出しなければならない。また、1日のコンクリート打設量を単位水量の管理記録に記載するものとする。

6. 測定頻度

単位水量の測定頻度は、2回/日（午前1回、午後1回）、及び荷卸し時に品質の変化が認められたときに実施するものとする。

7. 管理基準値・測定結果と対応

- (1) 管理基準値現場で測定した単位水量の管理基準値は次のとおりとして扱うものとする。

区 分	単位水量 (kg/m ³)
管 理 値	配合設計±15kg/m ³
指 示 値	配合設計±20kg/m ³

(注1) 示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20・25mmの場合は175kg/m³、40mmの場合は165kg/m³を基本とする。

(注2) 単位水量を減じることにより、施工性が低下する場合は、必要に応じて支障のない量で高性能AE減水剤の使用を検討すること。

(2) 測定結果と対応

ア 管理値の場合

測定した単位水量が管理値内の場合は、そのまま打設して良い。

イ 管理値を超え、指示値内の場合

測定した単位水量が管理値を超え指示値内の場合は、そのまま施工してよいが、受注者は、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善の指示をしなければならない。

その後、管理値内に安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行うこととする。

なお、「管理値内に安定するまで」とは、2回連続して管理値内の値を観測することをいう。

ウ 指示値を超える場合

測定した単位水量が指示値を超える場合は、その運搬車は打込まずに持ち帰らせるとともに、受注者は、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善の指示をしなければならない。

その後、単位水量が管理値内に安定するまで全運搬車の測定を行う。

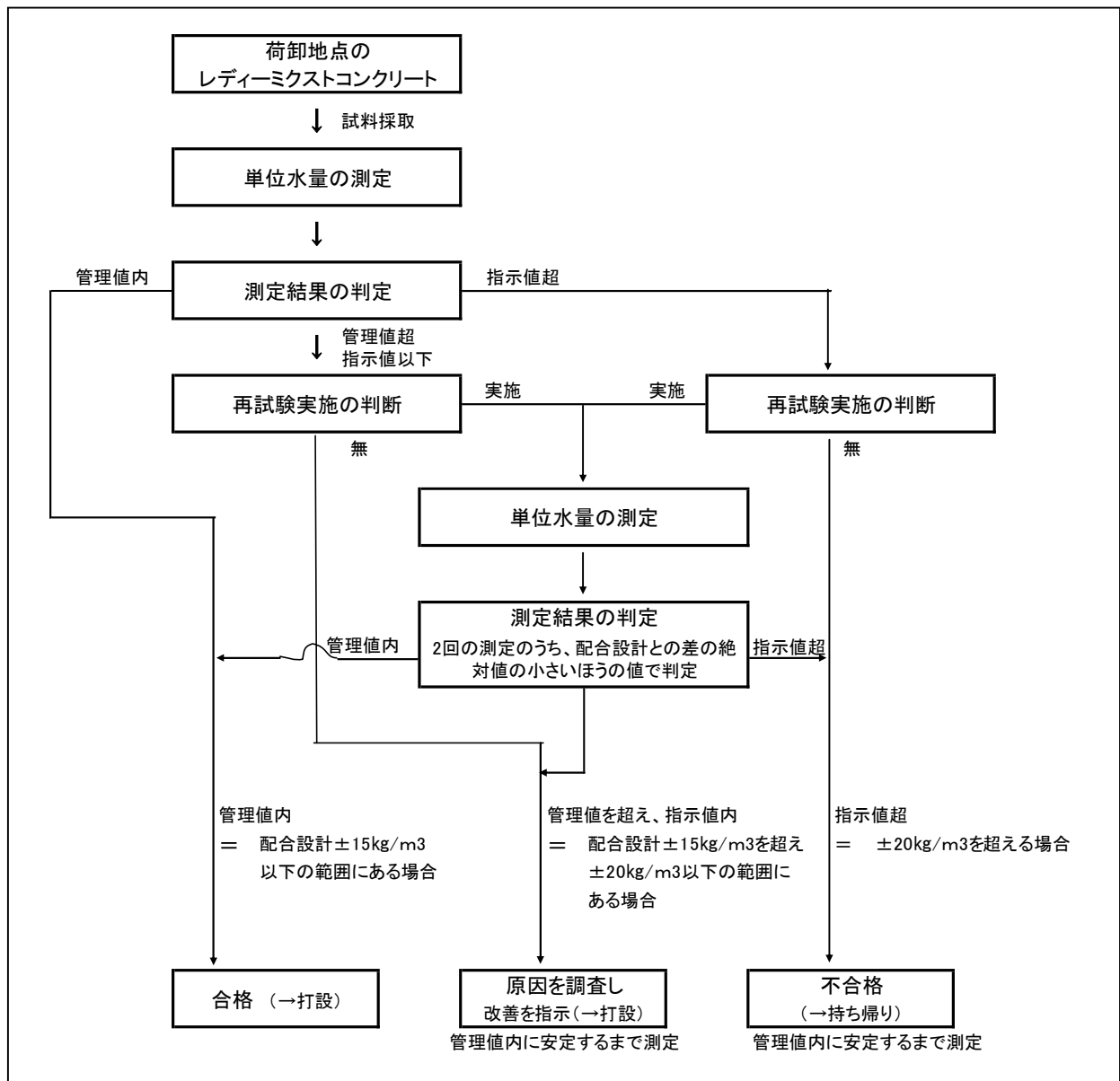
なお、管理値または指示値を超える場合は1回に限り再試験を実施することができる。

再試験を実施した場合は2回の測定結果のうち、配合設計との差の絶対値の小さい方の値で評価して良い。

打設 $\leq$ (管理値=配合設計 ± 15)<改善指示 $\leq$ (指示値=配合設計 ± 20)<持ち帰り

<	指示値 -20	$\leq$	管理値 -15	$\leq$	配合設計 値 ± 0	$\leq$	管理値 -15	$\leq$	指示値 -20	<
持ち帰り 全車	改善 1/3台	改善 1/3 台	打設	打設	打設	打設	打設	改善 1/3 台	改善 1/3台	持ち帰り 全車

レディーミクストコンクリートの単位水量測定の実施フロー図



レディーミクストコンクリートの単位水量測定の実管理図 (kg/m³)

